

2. 白井市第3次環境基本計画の策定について(答申)

白 環 審 第 9 号

令和4年2月24日

白井市長 笠井 喜久雄 様

白井市環境審議会

会長 倉阪 秀史

白井市第3次環境基本計画の策定について (答申)

令和元年11月21日付け白環第355号で諮問のありました白井市第3次環境基本計画の策定について、慎重に審議を重ねて結論に至ったため、別添のとおり答申いたします。

白井市第3次環境基本計画

答 申

令和4年度から9か年の白井市第3次環境基本計画は、市の最上位計画である白井市総合計画を環境面から推進し、同時に環境行政の最も基礎となる計画としての役割と性格をあわせ持ち、本市における環境の保全に関する目標及び施策の基本的な方向性を示すものです。

また、本計画に基づき、市の各部門における環境の保全に関する各種の施策が立案・実施され、市民・市民団体・事業者・行政が互いに連携・協力しながら、環境の保全に取り組むための指針となるものです。

このことから、本計画（案）の内容は、概ね適切であると判断し、審議の過程であった意見を下記のとおり付して答申します。

今後は、計画の着実な推進につなげていくために、基本理念を踏まえた環境の将来像である「良好な環境を未来につなぐ 持続可能なまち」を目指し、更には脱炭素社会の実現を視野に入れた取り組みを進めるなど、切に期待します。

記

- 1 白井市環境基本条例の理念を踏まえた目指す環境の将来像である「良好な環境を未来につなぐ 持続可能なまち」の実現のために、広く計画の周知に努め、市民・市民団体・事業者・行政が一体となり推進すること。
- 2 環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、庁内の連携を強め、効率的・効果的な事業等の実施に努めること。
- 3 地球温暖化対策については、国や県の動向に注視し、的確な情報を市民や事業者に提供することによって、省エネルギーや再生可能エネルギーの使用促進を図るとともに、市民や事業者との連携の場づくりを開始し、白井市における2050年のカーボンニュートラルの実現を見据えた取り組みを進めること。
- 4 脱炭素社会の実現に向けた機運の高まりや、環境問題に関する社会情勢の変化の速さ等を鑑み、計画の見直し等の対応を適切かつ柔軟に図ること。
- 5 目標達成に向けた取り組みの進行管理については、PDCAサイクルに基づく点検・評価や見直しを行い、計画の継続的な改善を図ること。

3. 策定の経緯

(1) 計画策定までの経緯

年月日	検討内容
令和元年11月21日	平成31年度第1回白井市環境審議会 ・白井市第3次環境基本計画の諮問について
令和2年1月8日	平成31年度第1回白井市第3次環境基本計画検討委員会 ・白井市第3次環境基本計画の進捗状況について ・アンケート調査の実施について
令和2年1月15日	平成31年度第1回白井市第3次環境基本計画策定委員会 ・白井市第3次環境基本計画の進捗状況について ・アンケート調査の実施について
令和2年1月25日	平成31年度第2回白井市環境審議会 ・白井市第3次環境基本計画策定に係るアンケート調査の素案について
令和2年2月14日 ～3月10日	第3次環境基本計画策定に係るアンケート調査
令和2年3月25日	環境団体等ヒアリング ・神崎川を守るしろい八幡溜の会
令和2年3月26日	環境団体等ヒアリング ・NPO法人谷田武西の原っぱと森の会
令和2年5月	令和2年度第1回白井市第3次環境基本計画検討委員会（書面開催） ・令和2年2月に実施したアンケート調査等について
令和2年8月26日	令和2年度第1回白井市第3次環境基本計画策定委員会（書面開催） ・令和2年2月に実施したアンケート調査の報告について
令和2年10月21日	令和2年度第2回白井市環境審議会 ・白井市第2次環境基本計画の計画期間延長について ・令和2年2月に実施した白井市第3次環境基本計画に係る市民アンケート結果について
令和3年2月24日	環境団体等ヒアリング ・白井環境フォーラム実行委員会
令和3年3月22日	環境団体等ヒアリング ・NPO法人しろい環境塾
令和3年4月17日 ・4月18日・4月25日	白井市地区意見交換会 ・講師講演①：白井市の未来の地域課題（未来カルテ） ・講師講演②：気候変動の影響と近年の脱炭素の動き ・改良版白井市カーボンニュートラルシミュレータ ・ワークショップ
令和3年5月20日	令和3年度第1回白井市第3次環境基本計画検討委員会 ・白井市第3次環境基本計画の施策体系について ・白井市第3次環境基本計画の骨子案について
令和3年5月27日	令和3年度第1回白井市第3次環境基本計画策定委員会 ・白井市第3次環境基本計画の骨子案について ・白井市第3次環境基本計画の施策体系について
令和3年6月28日	令和3年度第1回白井市環境審議会

年月日	検討内容
	・白井市第3次環境基本計画の骨子（案）について
令和3年7月15日	行政経営戦略会議 ・白井市第3次環境基本計画の方向性について（付議）
令和3年8月17日	令和3年度第2回白井市第3次環境基本計画検討委員会 ・白井市第3次環境基本計画の素案（案）について
令和3年8月26日	令和3年度第2回白井市第3次環境基本計画策定委員会 ・白井市第3次環境基本計画の素案（案）について
令和3年10月1日	令和3年度第2回白井市環境審議会 ・白井市第3次環境基本計画の素案（案）について
令和3年10月26日	令和3年度第3回白井市第3次環境基本計画検討委員会 ・白井市第3次環境基本計画の素案（案）について
令和3年11月4日	令和3年度第3回白井市第3次環境基本計画策定委員会 ・白井市第3次環境基本計画の素案（案）について
令和3年11月22日	令和3年度第3回白井市環境審議会 ・白井市第3次環境基本計画の素案（案）について
令和4年2月3日	令和3年度第4回白井市環境審議会 ・白井市第3次環境基本計画（素案）に対するパブリックコメントの結果について ・白井市第3次環境基本計画の答申書（案）について

（2）計画策定に係る審議会・委員会等

ア) 白井市第3次環境基本計画検討委員会

所属	役職・氏名	任期	備考
総務部公共施設マネジメント課	主査補 西口 武雄	平成31年度～令和2年度	
	主査補 渡邊 智子	令和3年度～	
企画財政部企画政策課	主任主事 多納 聖	平成31年度～	
都市建設部都市計画課	主査 鷗野 祐次	平成31年度～令和2年度	
	主査補 石田 俊之	令和3年度～	
都市建設部建築宅地課	主査 八木 妙子	平成31年度	
	主査 秋本 裕幸	令和2年度～	
都市建設部道路課	主任主事 五十畑 真志	平成31年度～令和2年度	
	主事 紫尾 拓斗	令和3年度～	
都市建設部上下水道課	主任技師 伊藤 孝浩	平成31年度～	
教育部教育支援課	指導主事 志賀 寿長	平成31年度～令和2年度	
	主任主事 小菅 瑞恵	令和3年度～	
教育部生涯学習課	主事 古曳 悟	平成31年度	
	主事 山中 誠道	令和2年度～	
農業委員会事務局	主任主事 谷嶋 喜一	平成31年度	
	主事補 和田 将希	令和2年度～	
市民環境経済部市民活動支援課	主事 紫尾 拓斗	平成31年度～令和2年度	
	主査 保科 恭子	令和3年度～	副会長
市民環境経済部産業振興課	副主幹 高花 宏行	平成31年度	

所属	役職・氏名	任期	備考
	副主幹 今井 修一	令和2年度	
	副主幹 萩原 靖殖	令和3年度～	会長

イ) 白井市第3次環境基本計画策定委員会

所属	役職・氏名	任期	備考
総務部公共施設マネジメント課	課長 鈴木 隆宗	令和2年度～	
企画財政部企画政策課	課長 永井 康弘	平成31年度～令和2年度	
	課長 池内 一成	令和3年度～	
都市建設部都市計画課	課長 小島 健太郎	令和3年度～	
都市建設部建築宅地課	課長 宇佐美 喜久	平成31年度～令和2年度	
	課長 藤川 敦史	令和3年度～	
都市建設部道路課	課長 竹田 忠夫	平成31年度～	
都市建設部上下水道課	課長 青木 元晴	平成31年度～	
教育部教育支援課	参事 鈴木 直人	平成31年度	
	参事 和地 滋巳	令和2年度	
	参事 本間 賢一	令和3年度～	
教育部生涯学習課	課長 石戸 啓夫	平成31年度～令和2年度	
	課長 寺田 豊	令和3年度～	
農業委員会事務局	事務局長 大野 真二	平成31年度～	
市民環境経済部市民活動支援課	課長 岡田 光一	平成31年度	
	課長 松岡 正純	令和2年度～	会長
市民環境経済部産業振興課	課長 川村 俊男	平成31年度	
	課長 金井 勉	令和2年度～	副会長

ウ) 白井市環境審議会

区分	所属	氏名	任期	備考
有識者	環境カウンセラー	辻川 毅	平成31年2月14日～令和3年2月13日	
		上口 清彦	令和3年2月14日～令和5年2月13日	
	東邦大学理学部	長谷川 雅美	平成31年2月14日～令和5年2月13日	
	日本大学理工学部	村上 雅彦	平成31年2月14日～令和5年2月13日	副会長 (令和3年度)
	千葉大学大学院社会科学研究院	倉阪 秀史	平成31年2月14日～令和5年2月13日	会長 (令和3年度)
	白井市農業委員会	中村 教雄	平成31年2月14日～令和5年2月13日	
事業者	白井工業団地協議会	野水 俊夫	平成31年2月14日～令和3年2月13日	会長 (平成31年度～令和2年度)
		尾籠 和彦	令和3年2月14日～令和5年2月13日	
	白井市商工会	藤田 均	平成31年2月14日～令和5年2月13日	
市民代表		市川 温子	平成31年2月14日～令和3年2月13日	副会長 (平成31年度～令和2年度)
		小林 洋子	平成31年2月14日～令和3年2月13日	
		田中 繁雄	平成31年2月14日～令和3年2月13日	
		清田 倍子	平成31年2月14日～令和3年2月13日	
		中川 幸子	平成31年2月14日～令和3年2月13日	
		吉武 照義	令和3年2月14日～令和5年2月13日	
		宇賀 博	令和3年2月14日～令和5年2月13日	
		岡村 隆	令和3年2月14日～令和5年2月13日	
		稲田 忍	令和3年2月14日～令和5年2月13日	
		五十嵐 真人	令和3年2月14日～令和5年2月13日	
団体代表	白井市農業研究会	山崎 信男	平成31年2月14日～令和3年2月13日	
		山田 幹男	令和3年2月14日～令和5年2月13日	
	白井環境ネットワークの会	北澤 告一	平成31年2月14日～令和5年2月13日	
	白井市自治連合会	斎藤 勇	平成31年2月14日～令和2年6月29日	
		鈴木 清孝	令和2年6月30日～令和5年2月13日	

エ) 行政経営戦略会議

市では、市政運営の基本的な方針及び重要な施策について、行政経営の観点から迅速に決定し、市政を効率的に経営するため、行政経営戦略会議を設置しており、本計画の策定に際し、体系・目標・方針など、計画の方向性の決定について、令和3年7月に付議しております。

オ) 環境団体等意見交換会

年月日	団体名	出席者名
令和2年3月25日	神崎川を守るしろい八幡溜の会	6名
	事務局	2名
令和2年3月26日	NPO法人谷田武西の原っぱと森の会	8名
	事務局	2名
	コンサルタント会社	2名
令和3年2月24日	白井の自然を考える会	1名
	白井社会ボランティアの会	1名
	NPO法人谷田武西の原っぱと森の会	1名
	まどか幼稚園	2名
	神崎川を守るしろい八幡溜の会	1名
	事務局	3名
	コンサルタント会社	2名
令和3年3月22日	NPO法人しろい環境塾	4名
	事務局	2名
	コンサルタント会社	2名

カ) 地区意見交換会

① 地区意見交換会概要

「白井市第3次環境基本計画」の策定に当たり、市民から、市の環境に対する満足度や環境を守るための行動状況、市の環境の将来像、環境施策について意見を聞き、策定の参考にするため開催しました。6地区で開催し、延べ60名もの参加があり活発な意見交換が行われました。

全6回の地区意見交換会の概要を以下に示します。

日時	令和3年4月17日（土）		令和3年4月18日（日）		令和3年4月25日（日）	
	AM10-12	PM2-4	AM10-12	PM2-4	AM10-12	PM2-4
場所	公民センター	白井コミュニティセンター	桜台センター	富士センター	白井駅前センター	西白井複合センター
参加人数 (班数)	8（2）	7（1）	8（2）	6（1）	13（3）	18（4）
内容	ワークショップの趣旨、白井市の環境の現況について（市）10分 白井市の未来の地域課題（未来カルテ）（倉阪先生）20分 気候変動の影響と近年の脱炭素の動き（栗島先生）10分 改良版白井市カーボンニュートラルシミュレータ20分 休憩（5～10分） ワークショップ40分 発表+締め10分 終了後アンケートを書いた人から退場 約5分					
開催風景						
	市長挨拶			カーボンニュートラルシミュレータ		
開催風景						
	ワークショップ（班での意見交換）			ワークショップ（発表）		

② ワークショップ意見まとめ



4. 温室効果ガス削減目標の設定方法

(1) 温室効果ガス排出量現況推計

温室効果ガス排出量の算定手法は、「地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル」（環境省、令和3（2021）年3月）に基づき、次のとおり設定しました。

表 6.1 温室効果ガス排出量の推計手法

ガス種	部門・分野			今回の推計手法
CO ₂	エネルギー 起源	産業 部門	農林水産業	市内農林水産業従業者数×千葉県農林水産業エネルギー消費量／千葉県農林水産業従業者数×燃料種別炭素排出係数×44／12
			建設業・鉱業	市内建設業・鉱業従業者数×千葉県建設業・鉱業エネルギー消費量／千葉県建設業・鉱業従業者数×燃料種別炭素排出係数×44／12
			製造業	市内産業分類別製造品出荷額×千葉県製造業産業分類別エネルギー消費量／千葉県産業分類別製造品出荷額×燃料種別炭素排出係数×44／12
		業務その他部門		市内業務系建物延床面積×千葉県業務部門エネルギー消費量／千葉県業務系建物延床面積×燃料種別炭素排出係数×44／12
		家庭部門		市内世帯数×千葉県家庭部門エネルギー消費量／千葉県世帯数×燃料種別炭素排出係数×44／12
		運輸 部門	自動車（貨物）	環境省「運輸部門（自動車）CO ₂ 排出量推計データ」の値を使用
			自動車（旅客）	環境省「運輸部門（自動車）CO ₂ 排出量推計データ」の値を使用
	鉄道		市内人口／全国人口×全国鉄道エネルギー消費量×燃料種別炭素排出係数×44／12	
	非エネルギー 起源	廃棄物 分野	一般廃棄物	市内廃棄物直接焼却量×クリーンセンターしらさぎのプラスチックごみの割合×（1-クリーンセンターしらさぎのごみの水分の割合）×排出係数+市内廃棄物直接焼却量×全国の合成繊維の割合×（1-クリーンセンターしらさぎのごみの水分の割合）×排出係数
		工業 プロセス		市内窯業・土石製品製造業製造品出荷額／全国窯業・土石製品製造業製造品出荷額×全国セメント製造によるCO ₂ 排出量
CH ₄ N ₂ O	燃料の燃焼分野		自動車走行	市内自動車CO ₂ 排出量×全国CH ₄ ・N ₂ O排出量／全国CO ₂ 排出量
	廃棄物分野		一般廃棄物	市内廃棄物直接焼却量×排出係数
	農業部門		自動車走行	市内農地面積／全国農地面積×全国CH ₄ ・N ₂ O排出量
Fgas等				市内人口×全国F-gas等排出量／全国人口

(2) 削減目標の考え方

ア) 目標の考え方

「現状までの削減量（下図のa）」、「将来推計による増減（下図のb）」及び「削減可能量の推計（下図のc）」の総和から「目標年度の削減量見込み（下図のd）」を推計し、削減目標を検討する目安としています。

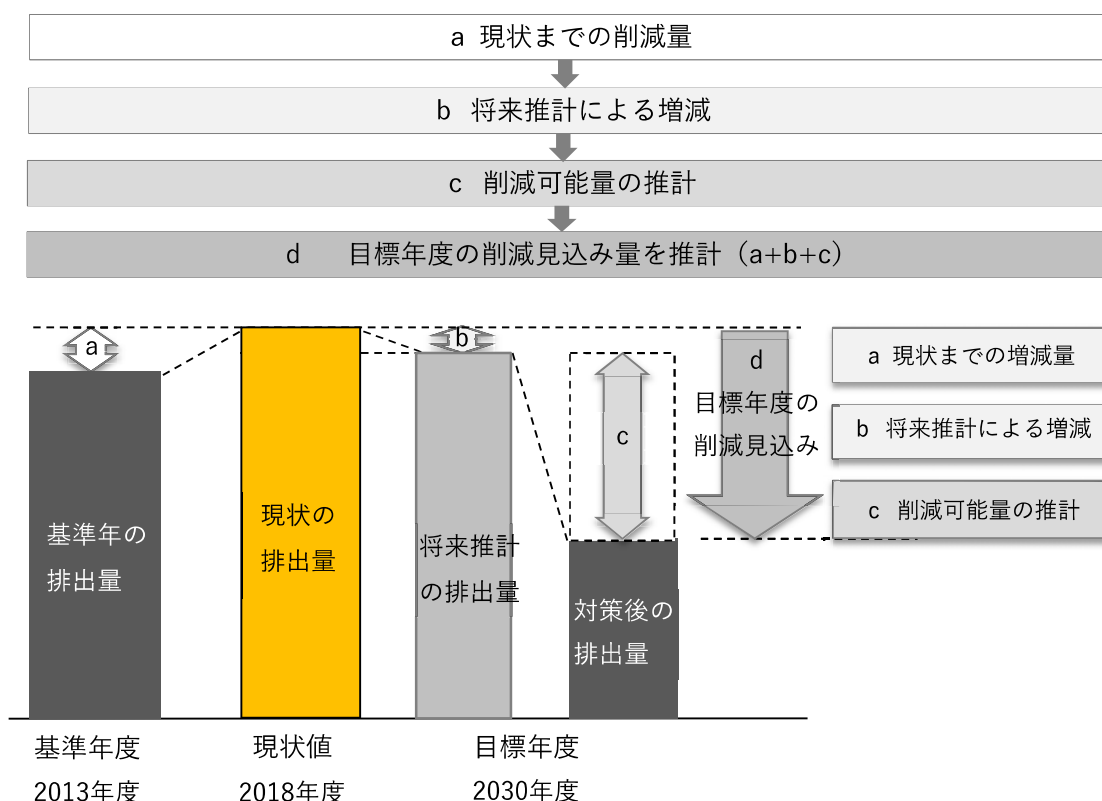


図 6.1 削減目標の設定イメージ

イ) 将来推計(現状すう勢)による増減の推計方法

基準年度（平成25（2013）年度）から現状（平成30（2018）年度）までの削減量と現状から目標年度（令和12（2030）年度）までの将来推計について、各部門の温室効果ガス排出量の増減は表1のとおりです。

目標年度（令和12（2030）年度）までの将来推計については、下記に示す方法で現状すう勢による温室効果ガス排出量の算定を行っています。

$$\boxed{\text{将来における温室効果ガス排出量}} = \boxed{\text{最新年度の温室効果ガス排出量}} \times \boxed{\text{活動量変化率}}$$

表 6.2 将来排出量の推計に必要な活動量の想定

ガス・部門		活動量指標	将来の活動量の傾向
産業部門	農林水産業	農林水産業従事者数	平成30（2018）年度値と同値
	建設業	建設業・鉱業従業者数	平成30（2018）年度値と同値
	製造業	製造品出荷額	毎年の変動があるため、過去5年の平均で推移すると仮定
家庭部門		世帯数	市の将来予測人口より、平成30（2018）年度値よりやや減少
業務部門		業務系建物延床面積	平成30（2018）年度値と同値
運輸部門	自動車	乗用車数	平成30（2018）年度値よりやや増加
	鉄道	人口	市の将来予測人口より、平成30（2018）年度値よりやや増加
廃棄物部門		人口	市の将来予測人口より、平成30（2018）年度値よりやや増加
その他ガス		人口	市の将来予測人口より、平成30（2018）年度値よりやや増加

（3）削減可能量の推計

白井市の削減可能量は、国の「地球温暖化対策計画」の対策を踏まえて検討しました（計算方法は表2を参照）。

算出方法は、各部門で指標となる活動量をもとに、国の部門別構成比を白井市の構成比で計算し、その割合で市の削減可能量を算出しています。

表 6.3 温室効果ガス削減可能量の推計方法

$\boxed{\text{市域における削減可能量}} = \boxed{\text{国の削減可能量}} \times \boxed{\text{市域の活動量指標}} \div \boxed{\text{国の活動量指標}}$				
※「国の削減可能量」複数の対策があり、白井市で適用可能な取組を選び、「削減可能量」として算出しています。 また、産業部門については情報提供等を行うことによる対策の強化を見込み補正係数をかけています。				

表 6.4 温室効果ガス削減可能量の推計結果

部門	対策項目	算定方法
産業	省エネ技術・設備の導入 (高効率空調、産業用照明の導入等)	製造品出荷額で按分
	エネルギー管理の徹底 (製造過程における省エネ技術の導入等)	
	その他対策・施策 (業種間連携省エネの取組推進等)	
	電力の排出係数の改善	電力使用量を推計
家庭	住宅の省エネ化 (断熱化、新築住宅の省エネ基準適合推進等)	世帯数で按分
	省エネ機器の導入 (HEMS・スマートメーター導入、高効率給湯器導入等)	
	省エネ行動の推進 (こまめな消灯、適切な室温管理等)	
	電力の排出係数の改善	電力使用量を推計
業務	建築物の省エネ化 (断熱化、新築建築物の省エネ基準適合推進)	業務系建物延床面積で按分
	省エネ機器の導入 (BEMS、高効率照明、高効率ボイラーの導入等)	
	省エネ行動の推進 (こまめな消灯、適切な室温管理等)	
	その他対策・施策 (エネルギーの面的利用拡大、ヒートアイランド対策等)	
	電力の排出係数の改善	電力使用量を推計
運輸	自動車単体対策 (燃費改善、次世代自動車の普及)	自動車保有台数で按分
	その他対策 (公共交通機関利用促進、エコドライブ推進等)	
	電力の排出係数の改善	電力使用量を推計
廃棄物	廃棄物対策 (廃棄物の減量等)	廃棄物焼却量で按分
工業プロセス	セメント対策	製造品出荷額で按分
CH ₄	施肥対策	耕地面積で按分
N ₂ O	水田メタン対策	耕地面積で按分
F-gas	代替フロン対策 (廃棄時等のフロン類の回収促進等)	製造品出荷額、業務建物延床面積で按分

5. アンケート結果

(1) アンケートの概要

	市民		事業者	子ども（児童・生徒）
対象	郵送	Web	・（一社）白井工業団地協議会会員 227事業者 ・商工会会員 524事業者	・市内の小学4年生 677人 ・市内の中学2年生 739人
	・市内の満18歳以上の市民に対して住民台帳から無作為抽出	・Webアンケート会社登録モニターから白井市民を無作為抽出		
調査項目	・設問1～8 回答者の属性 ・設問9 環境保全行動の実践状況 ・設問10 省エネ・再エネ設備の利用状況 ・設問11、12 市の取組への満足度・重要度 ・設問13 望ましい環境像 ・設問14 将来残したい場所 ・設問15～17 環境に関する情報の認知度 ・設問18 市に望む環境施策 ・設問19 環境に関する意見		・設問1～4 事業所の属性 ・設問5 環境保全行動の実践状況 ・設問6 省エネ・再エネ設備の利用状況 ・設問7、8 市の取組への満足度・重要度 ・設問9、10 環境問題への考え方 ・設問11 環境に配慮した事業活動の実施状況 ・設問12 市に望む環境施策 ・設問13 環境に関する意見	・設問1 市の取組への満足度・重要度 ・設問2 環境保全行動の実践状況 ・設問3 望ましい環境像 ・設問4 将来残したい場所 ・設問5、6 環境に関する情報の認知度
回収率	53.8 (1,076人/ 2,000人)	19.6% (110人/ 562人)	33.6% (252事業所/751事業所)	75.5% (1069人/1416人) (11校/14校) ※3校は新型コロナウイルスの影響等により未実施
実施時期	令和2年2月14日～3月10日	令和2年2月17日～2月19日	令和2年2月14日～3月10日	令和2年2月14日～3月10日
発送回収方法	調査票の郵送回収	Web ページでの回収	調査票の郵送回収	各学校へ配布・回収
送付資料	・依頼文 ・調査票 ※リマインダー葉書を送付	—	・依頼文 ・調査票	・依頼文 ・調査票

(2) アンケート集計分析結果

市民、事業所、子ども（児童・生徒）のアンケート集計分析結果を以下に示す。単純集計の結果に加えて、年齢や住居形態、事業所の種類などでクロス集計を実施することで、より詳細な傾向等を抽出している。

経年変化では、平成27（2015）年度、平成22（2010）年度に実施したアンケート結果と今回のアンケート結果を比較している。

なお、集計結果は端数処理の関係により、合計が100％とならないことがある。

【結果の見方について】

設問内容及び集計分析結果は、以下に示す記載様式で統一してまとめている。各設問内容を記載し、アンケート集計をもとに作成したグラフと集計表を記載している。

□設問内容（記載イメージ）

ア) 設問○ ●●●●

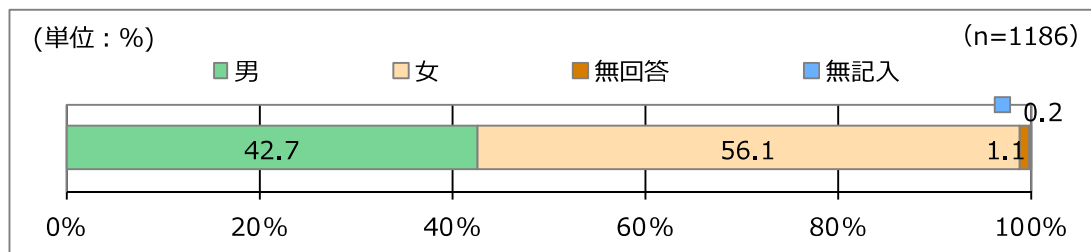
.....。	
1.	3.
2.	4.

ア) 市民

① 1. 回答者の属性

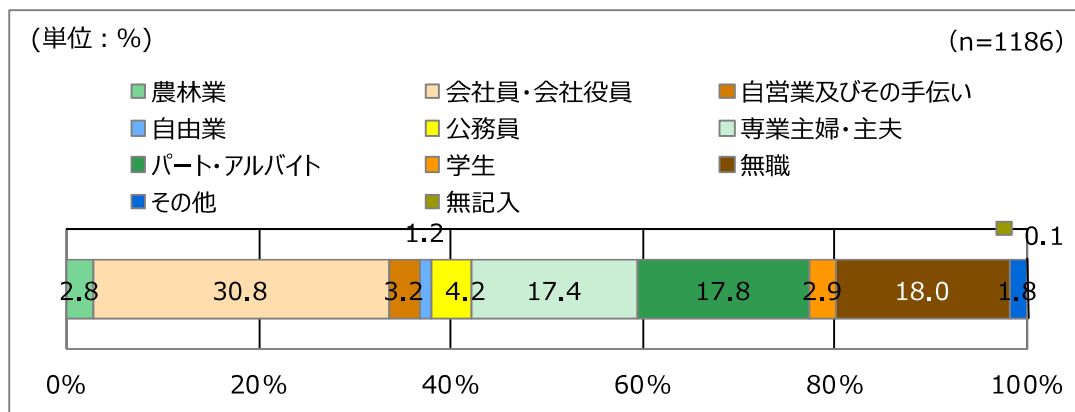
A. Q1 性別

・女性が56.1%、男性が42.7%と同程度の割合である。



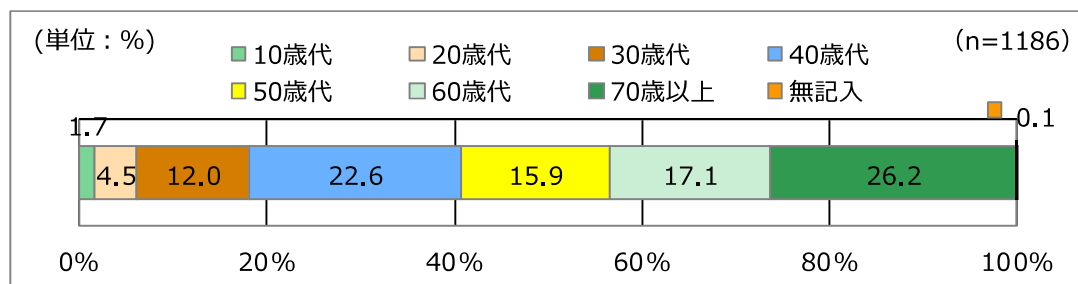
B. Q2 職業

・会社員が30.8%と最も多く、次いで無職が18.0%と多い。
 ・自由業が1.2%と最も少なく、次いで農林業が2.8%と少ない。



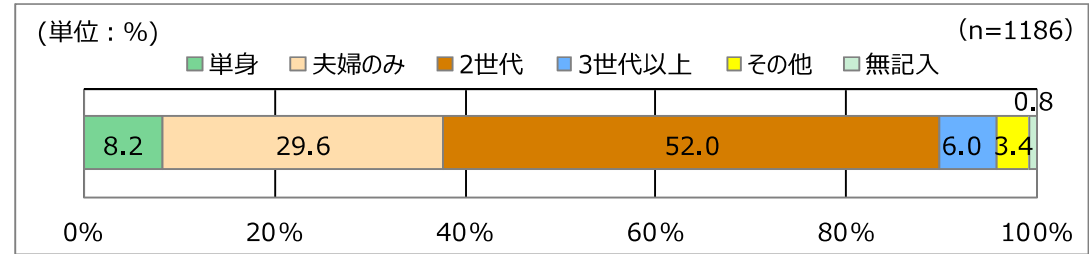
C. Q3 年齢

・70歳代以上が26.2%と最も多く、次いで40歳代が22.6%と多い。
 ・10歳代が1.7%と最も少なく、次いで20歳代が4.5%と少ない。



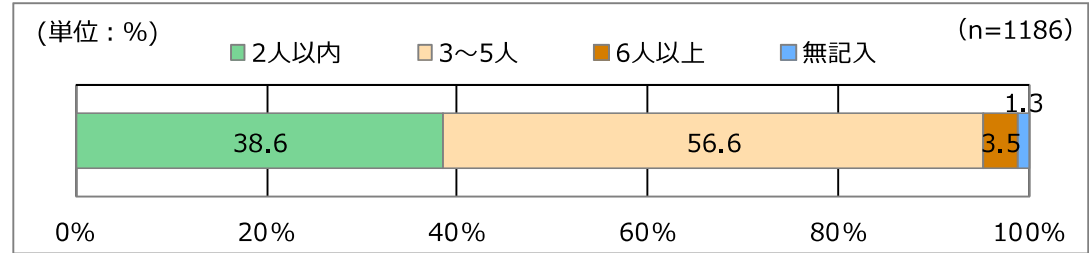
D. Q4 家族構成

- ・ 2世代が52.0%と最も多く、次いで、夫婦のみが29.6%と多い。
- ・ 3世代以上の世帯が6.0%と最も少ない。



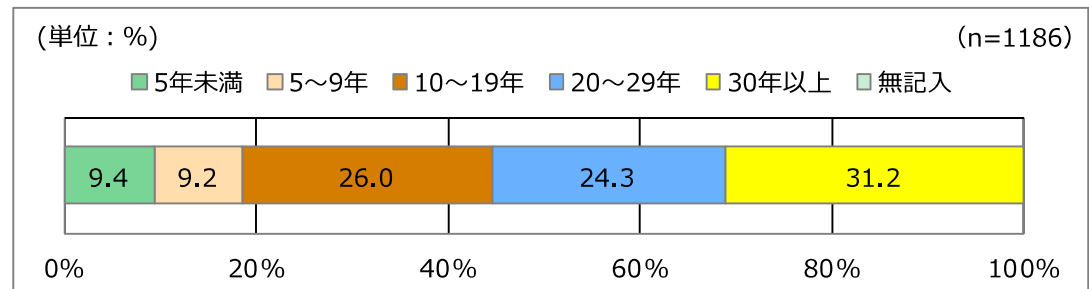
E. Q5 居住者人数

- ・ 3～5人が56.6%と最も多い。
- ・ 6人以上は3.5%と最も少ない。



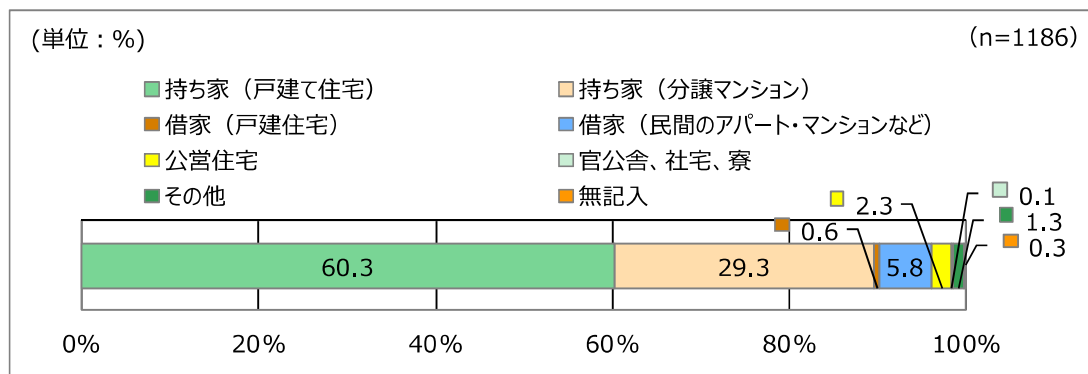
F. Q6 居住年数

- ・ 30年以上が31.2%と最も多く、次いで10～19年が26.0%と多い。
- ・ 5～9年未満が9.2%と最も少なく、次いで5年未満が9.4%と少ない。



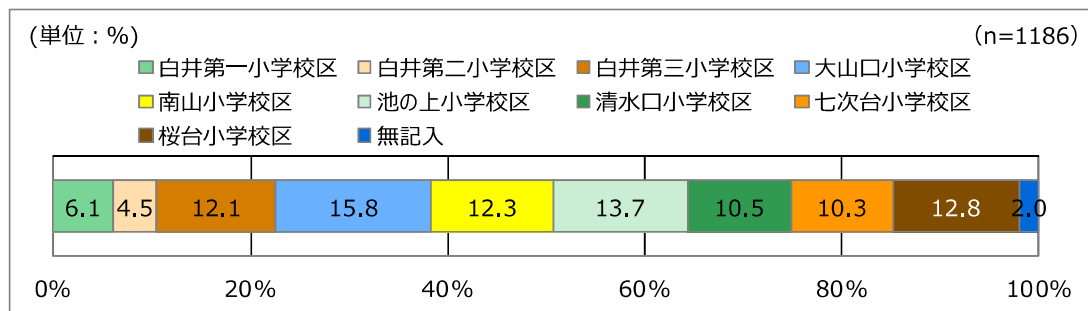
G. Q7 住宅状況

- ・持ち家（戸建て住宅）が60.3%と最も多く、次いで持ち家（分譲マンション）が29.3%と多い。
- ・官公庁、社宅、寮が0.1%と最も少なく、次いで借家（戸建住宅）が0.6%と少ない。



H. Q8 居住地区

- ・大山口小学校が15.8%と最も多い。
- ・白井第二小学校が4.5%と最も少なく、次いで白井第一小学校が6.1%と少ない。
- ・残りの小学校区は10%～14%程度で同程度の割合である。



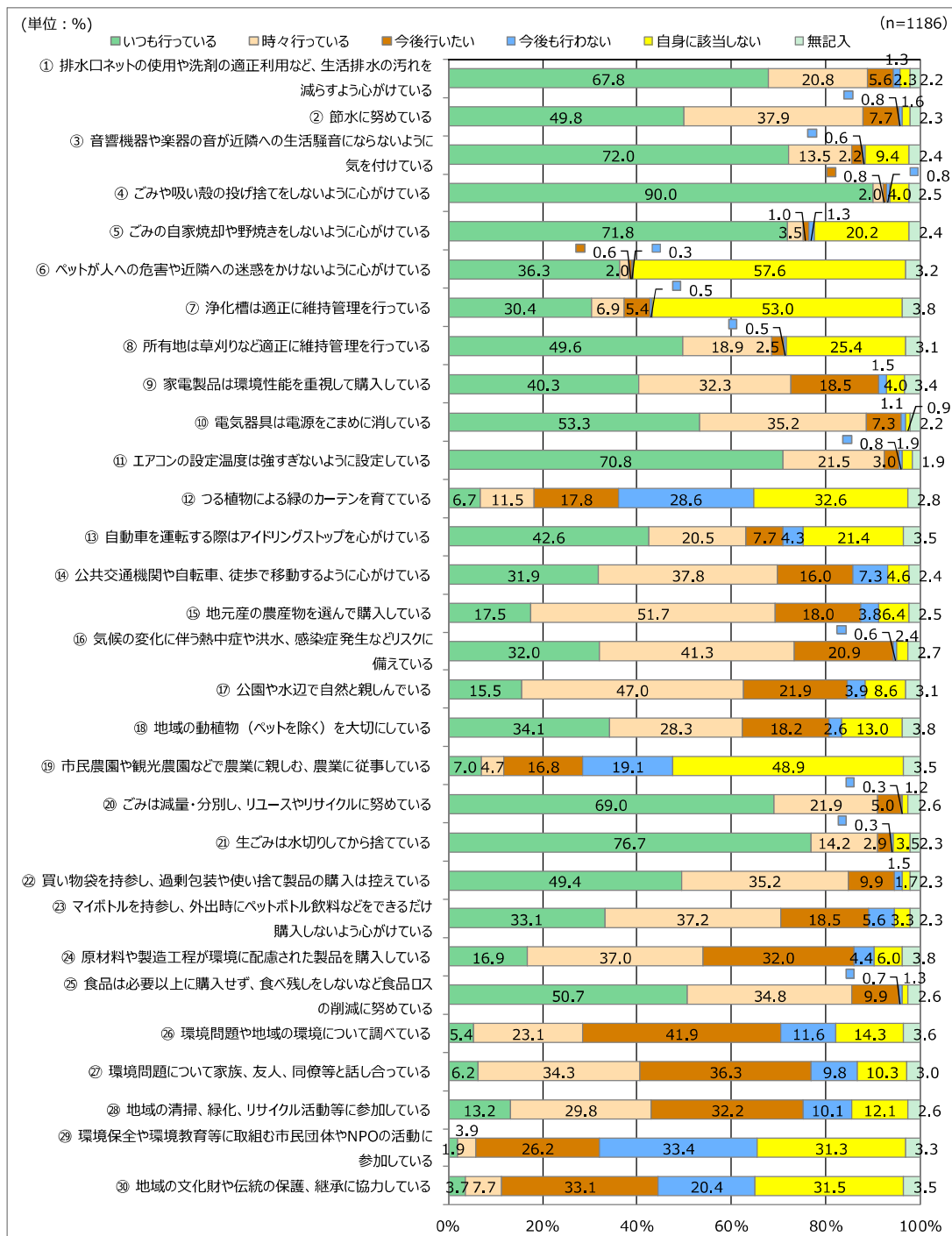
② 2. 環境の保全に関わる行動の取組状況

A. Q9

あなたのご家庭で行っている環境の保全に関わる行動の取組状況について、該当する番号に○をつけて下さい。(各項目につき○はひとつ)
<生活環境> ①排水口ネットの使用や洗剤の適正利用など、生活排水の汚れを減らすよう心がけている ②節水に努めている ③音響機器や楽器の音が近隣への生活騒音にならないように気を付けている ④ごみや吸い殻の投げ捨てをしないように心がけている ⑤ごみの自家焼却や野焼きをしないように心がけている ⑥ペットが人への危害や近隣への迷惑をかけないように心がけている ⑦浄化槽は適正に維持管理を行っている ⑧所有地は草刈りなど適正に維持管理を行っている <地球温暖化対策> ⑨家電製品は環境性能を重視して購入している ⑩電気器具は電源をこまめに消している ⑪エアコンの設定温度は強すぎないように設定している ⑫つる植物による緑のカーテンを育てている ⑬自動車を運転する際はアイドリングストップを心がけている ⑭公共交通機関や自転車、徒歩で移動するように心がけている ⑮地元産の農産物を選んで購入している ⑯気候の変化に伴う熱中症や洪水、感染症発生などリスクに備えている <自然環境> ⑰公園や水辺で自然と親しんでいる ⑱地域の動植物（ペットを除く）を大切にしている ⑲市民農園や観光農園などで農業に親しむ、農業に従事している <ごみの減量・資源化> ⑳ごみは減量・分別し、リユースやリサイクルに努めている ㉑生ごみは水切りしてから捨てている ㉒買い物袋を持参し、過剰包装や使い捨て製品の購入は控えている ㉓マイボトルを持参し、外出時にペットボトル飲料などをできるだけ購入しないよう心がけている ㉔原材料や製造工程が環境に配慮された製品を購入している ㉕食品は必要以上に購入せず、食べ残しをしないなど食品ロスの削減に努めている <環境学習・協働による環境保全活動> ㉖環境問題や地域の環境について調べている ㉗環境問題について家族、友人、同僚等と話し合っている ㉘地域の清掃、緑化、リサイクル活動等に参加している ㉙環境保全や環境教育等に取り組む市民団体やNPOの活動に参加している ㉚地域の文化財や伝統の保護、継承に協力している
①いつも行っている ②時々行っている ③今後行いたい ④今後も行わない ⑤自身に該当しない

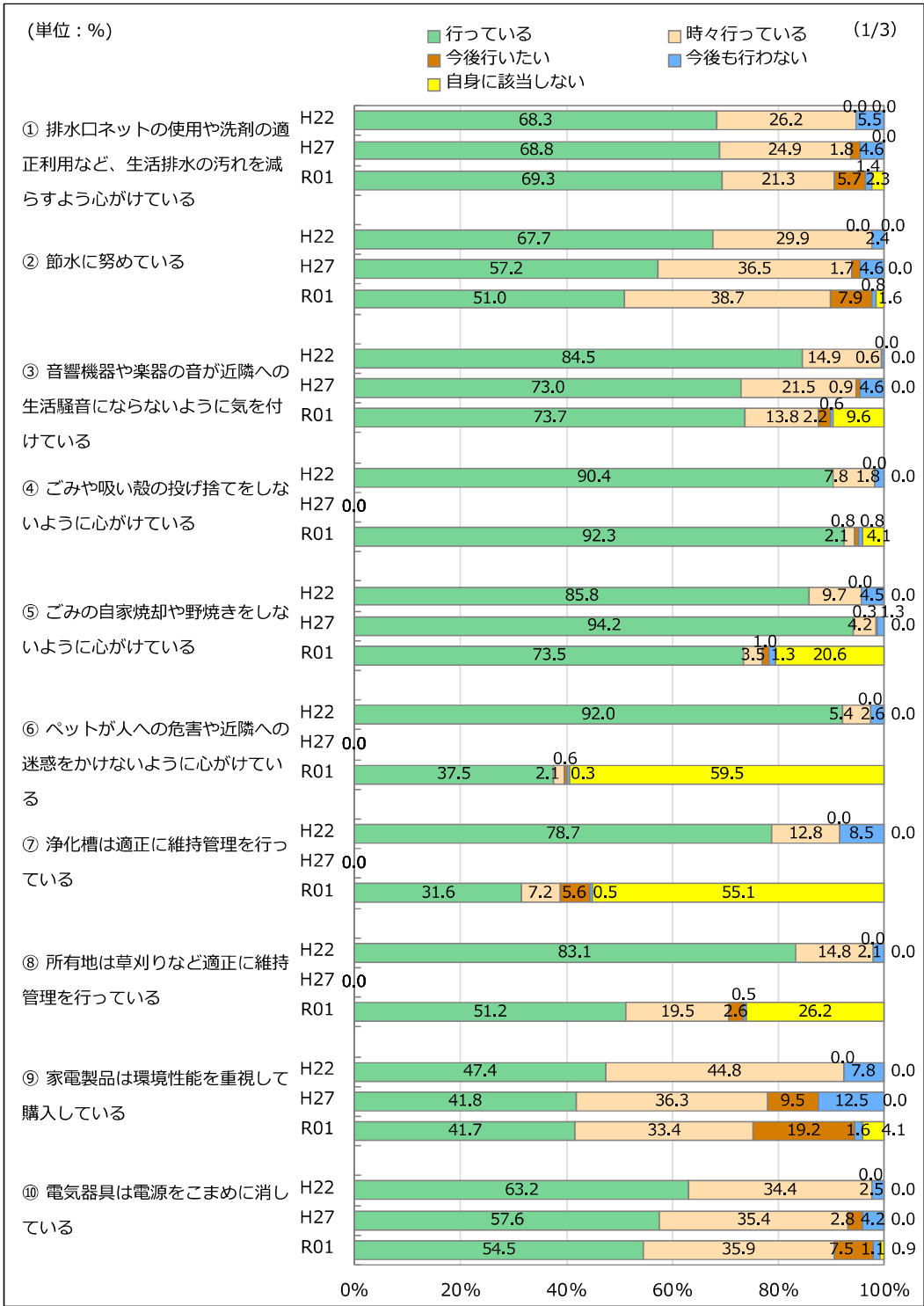
a. 全体

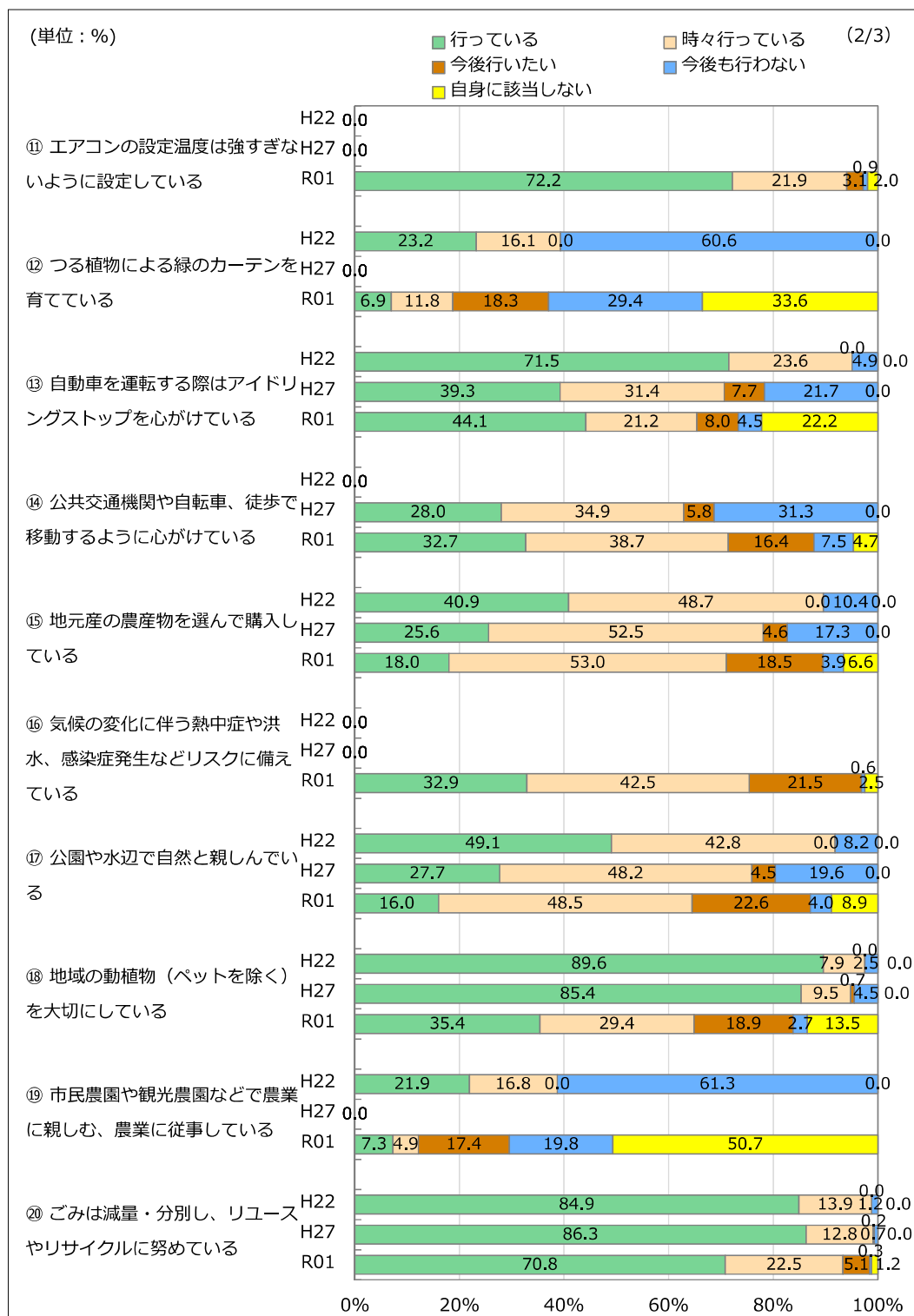
- ・「⑪エアコンの設定温度は強すぎないように設定している」の実施率（いつも行っている時々行っているの合計の値）が92.3%と最も高く、次いで「④ごみや吸い殻の投げ捨てをしないように心がけている」の実施率が92.0%と高い。
- ・「⑲環境保全や環境教育等に取組む市民団体やNPO活動の団体に参加している」が5.8%と最も低く、次いで「⑳地域の文化財や伝統の保護、継承に協力している」が11.4%と低い。

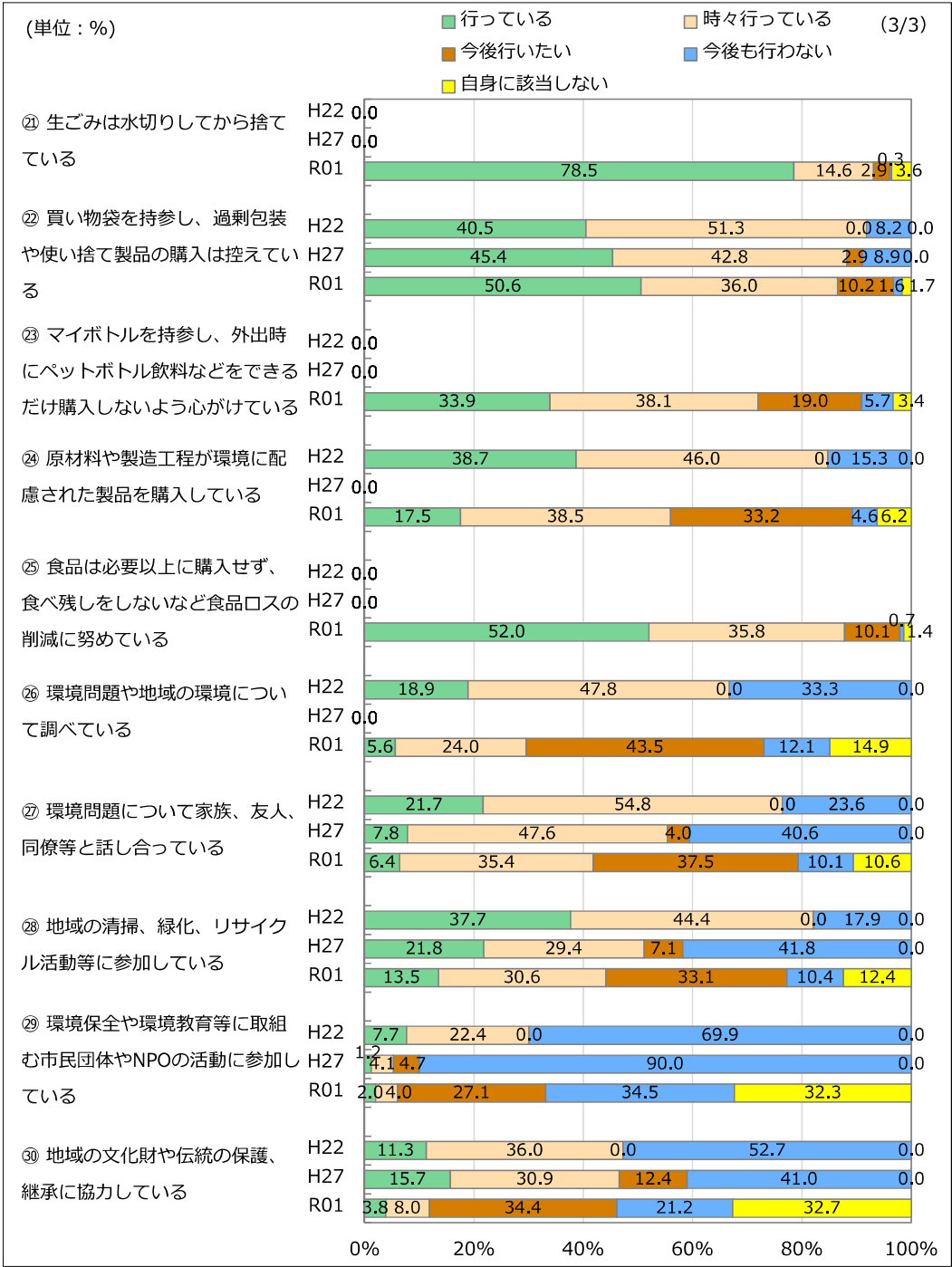


b. 経年変化

- ・ H27の結果と比較すると、「⑭公共交通機関や自転車、徒歩で移動するように心がけている」の実施率が8.5%と最も増加している。
- ・ H22の結果と比較すると、「⑩地域の文化財や伝統の保護、継承に協力している」の実施率が34.8%と最も減少している。また、H27の結果と比較すると、「⑩地域の文化財や伝統の保護、継承に協力している」の実施率が35.5%と最も減少している。



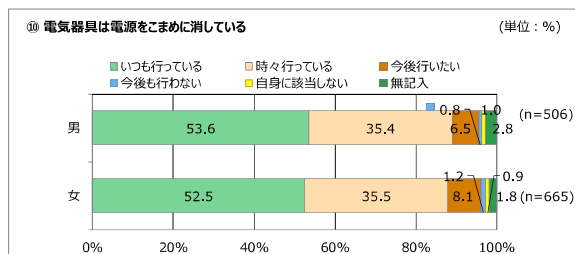
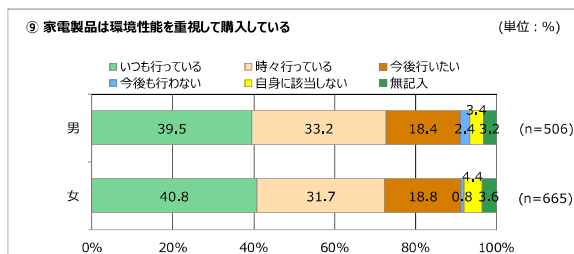
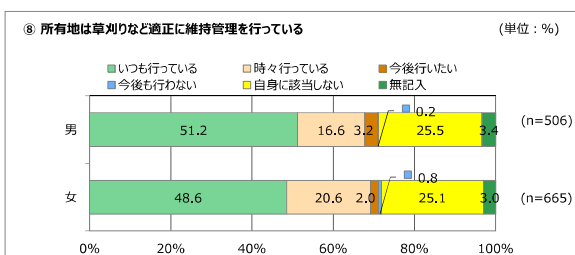
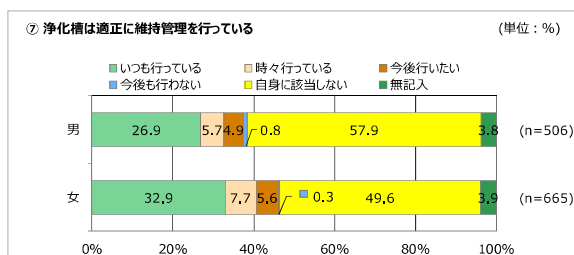
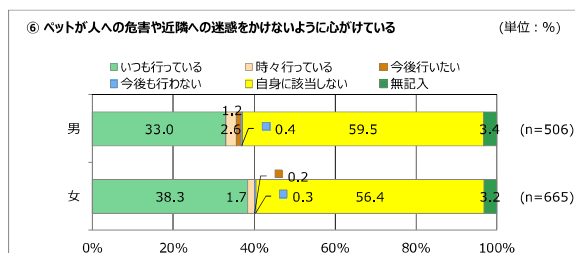
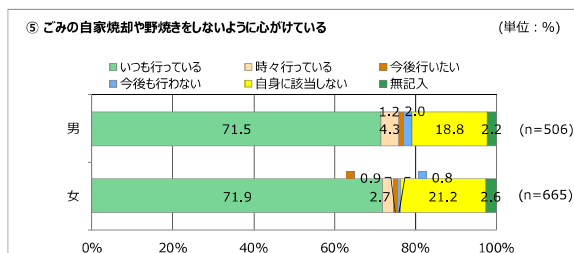
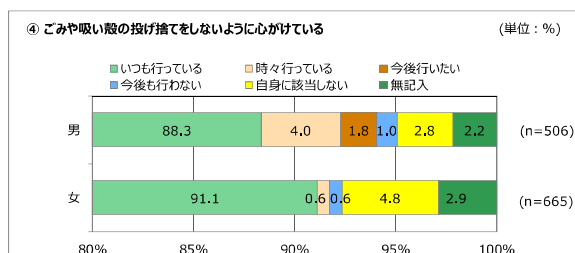
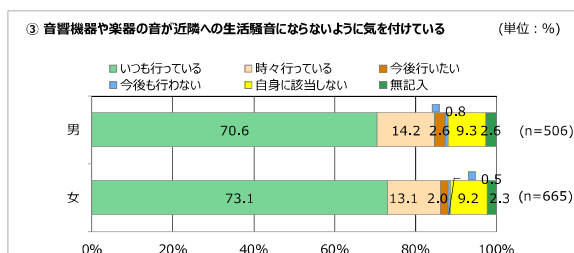
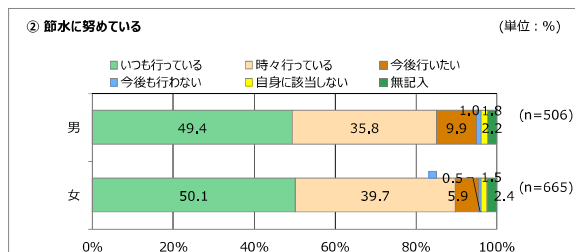
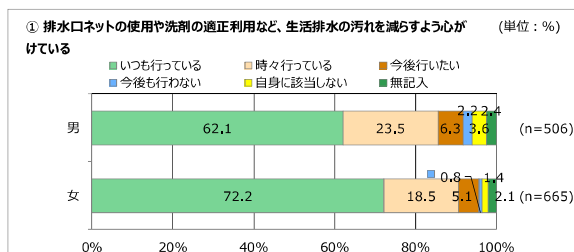


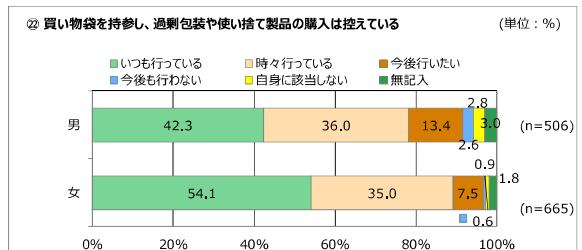
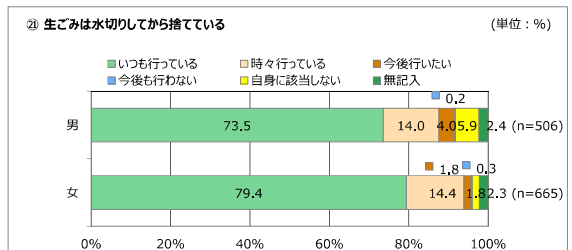
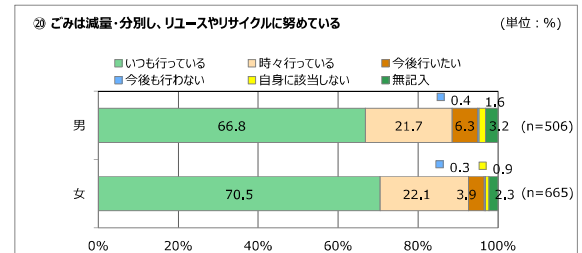
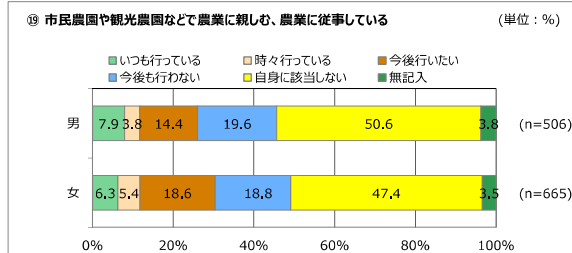
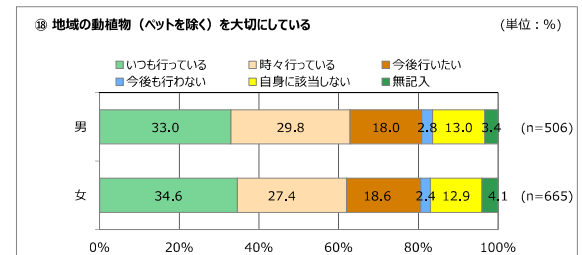
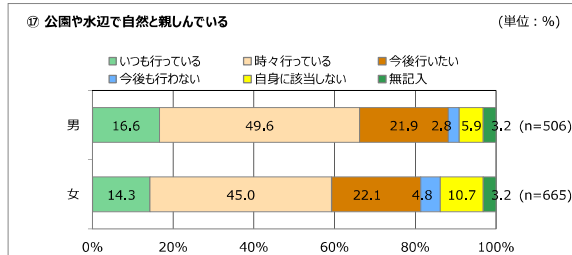
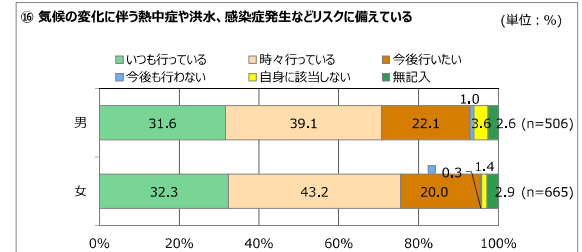
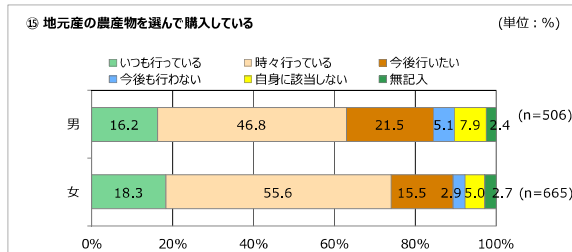
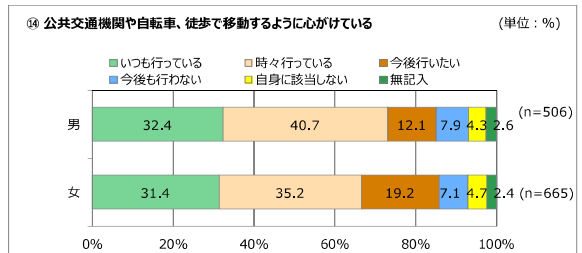
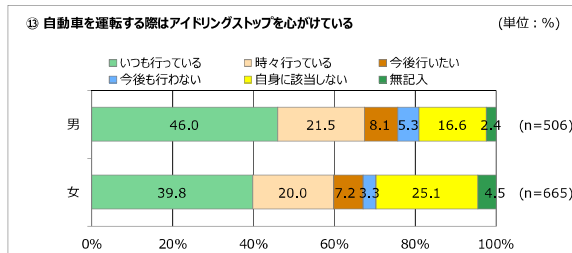
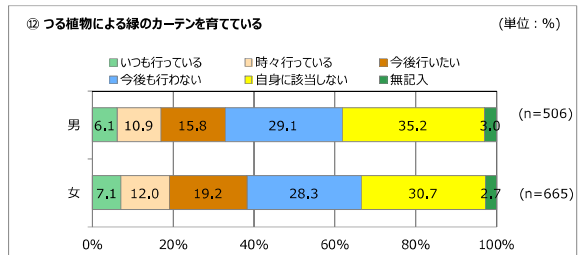
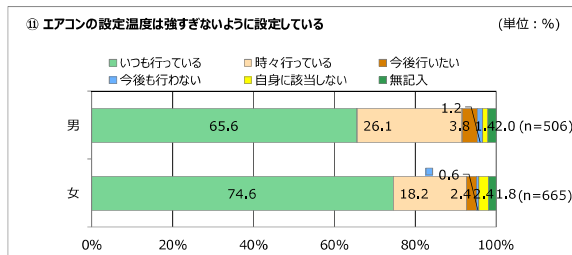


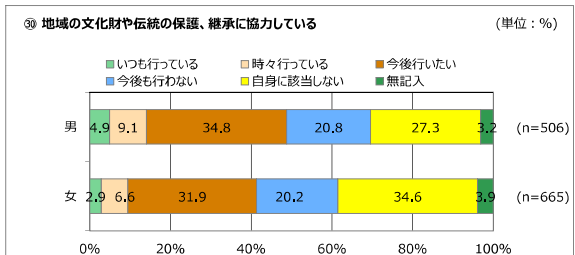
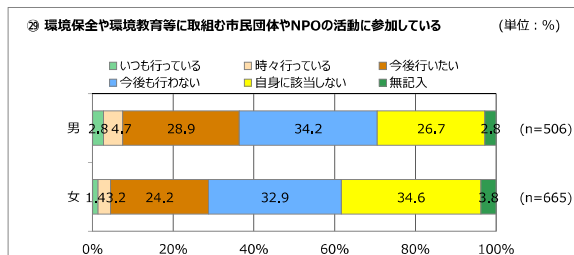
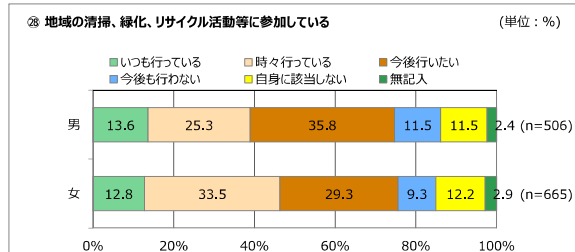
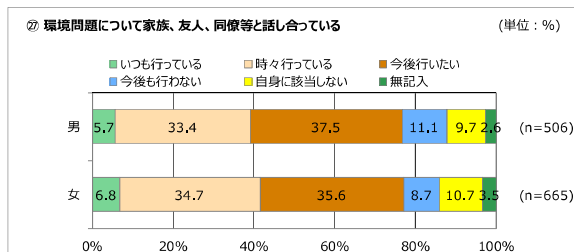
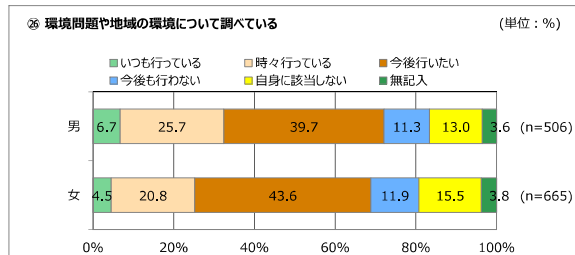
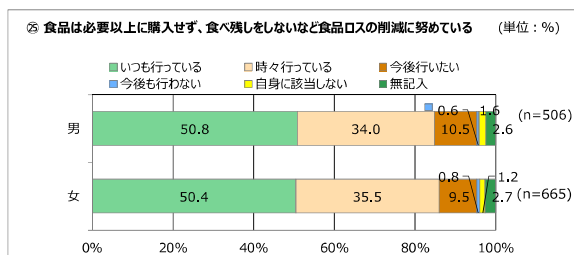
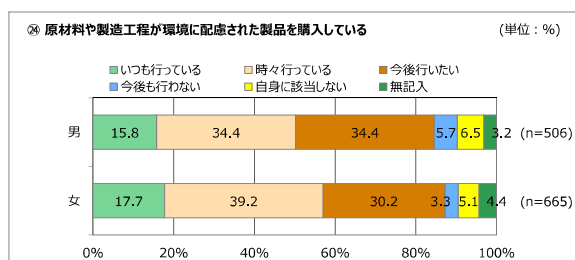
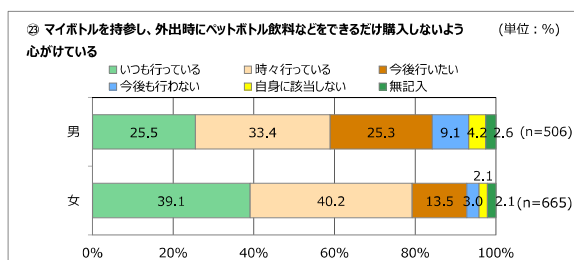
※実施率が0の項目は過去のアンケートで未実施
※R01では、「自身に該当しない」を選択肢に追加しているため、過去のアンケートとの単純な比較はできない

c. クロス集計(性別)

- ・「⑮地元産の農産物を選んで購入している」、「㉔買い物袋を持参し、過剰包装や使い捨て製品の購入は控えている」、「㉔マイボトルを持参し、外出時にペットボトル飲料などをできるだけ購入しないよう心がけている」は女性が男性より高い傾向にある。

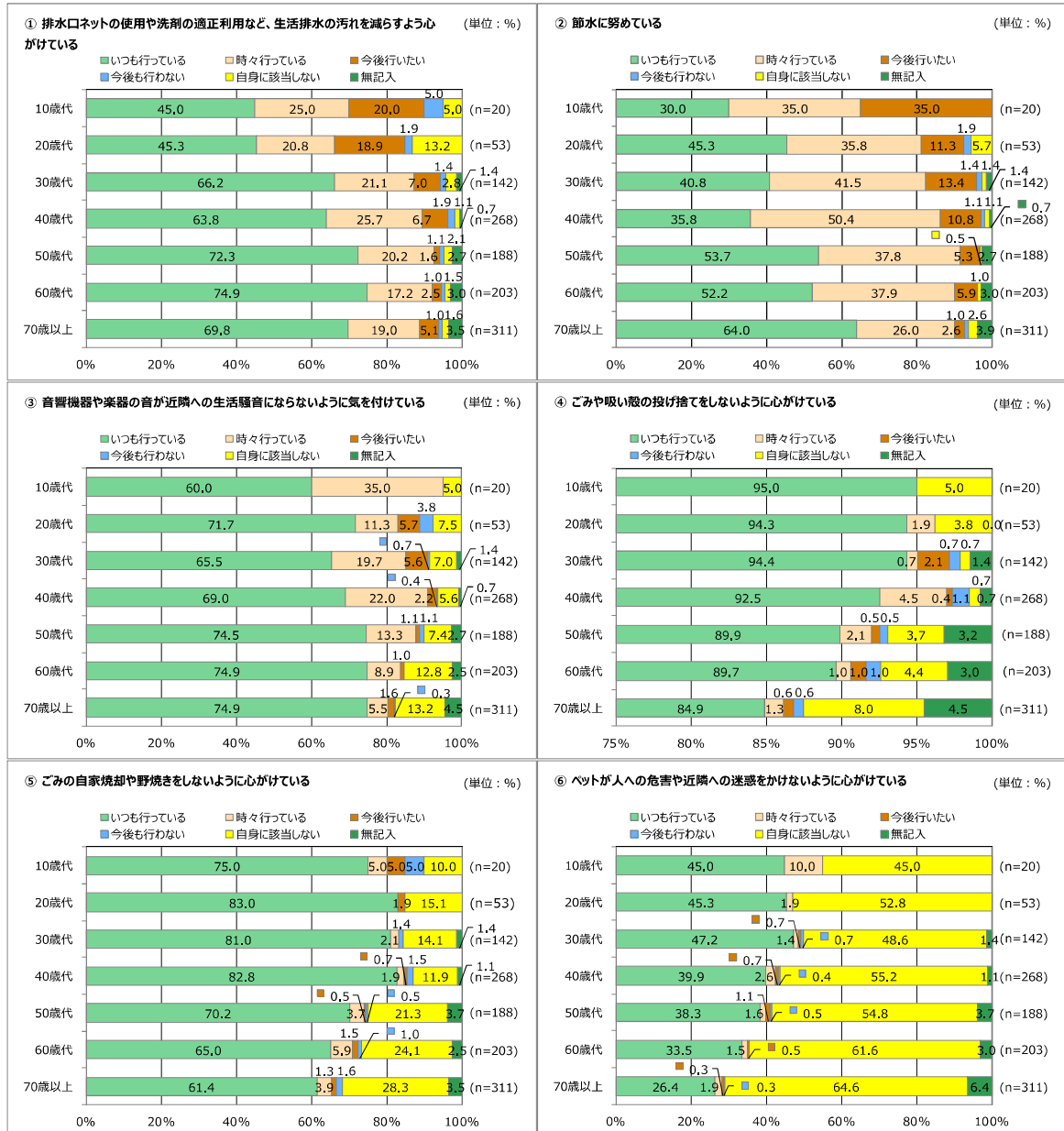






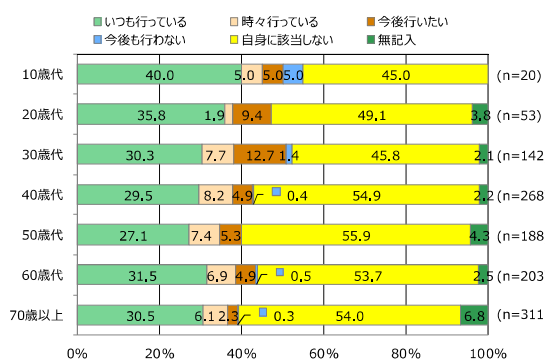
d. クロス集計(年齢)

- ・「②節水に努めている」、「⑨家電製品は環境性能を重視して購入している」、「⑮地元産の農産物を選んで購入している」、「⑳ごみは減量・分別し、リユースやリサイクルに努めている」、「㉔地域の清掃、緑化、リサイクル活動等に参加している」は年齢が高くなると実施率が上がる傾向である。



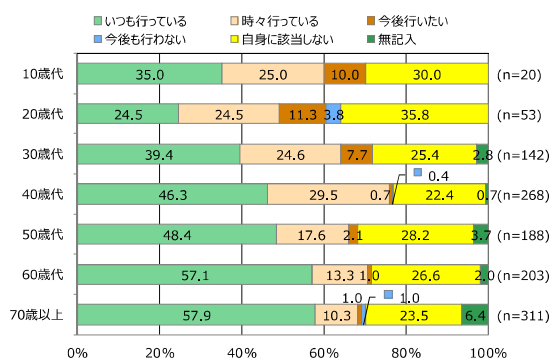
⑦ 浄化槽は適正に維持管理を行っている

(単位：%)



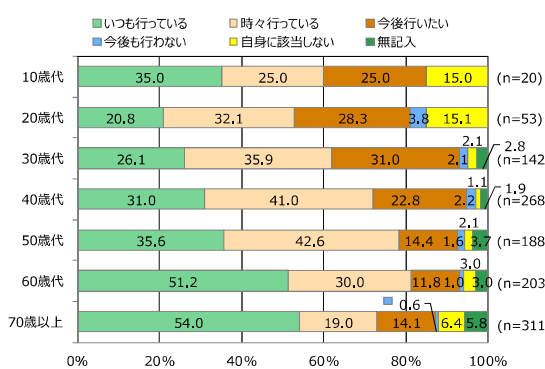
⑧ 所有地は草刈りなど適正に維持管理を行っている

(単位：%)



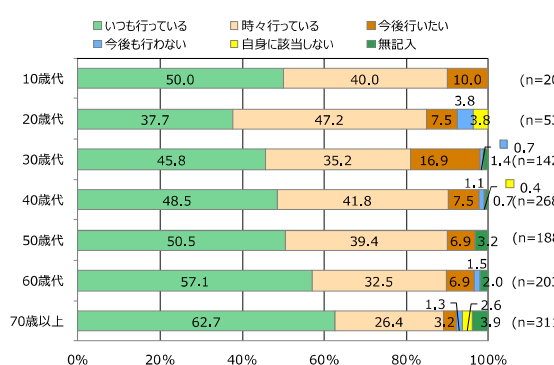
⑨ 家電製品は環境性能を重視して購入している

(単位：%)



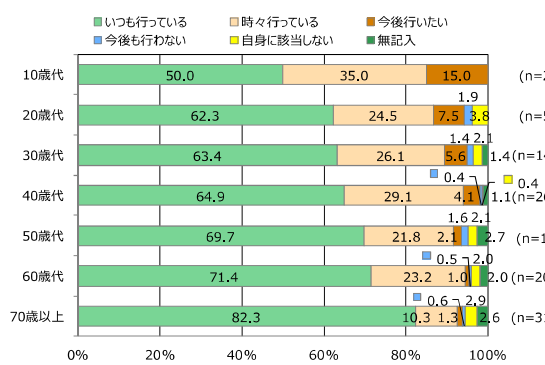
⑩ 電気器具は電源をこまめに消している

(単位：%)



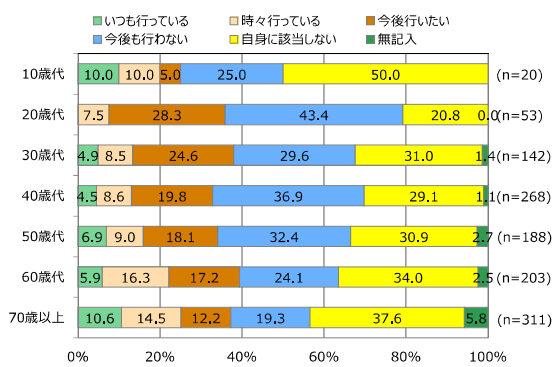
⑪ エアコンの設定温度は強すぎないように設定している

(単位：%)



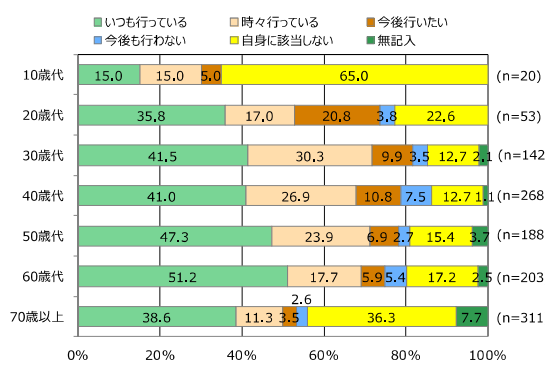
⑫ つる植物による緑のカーテンを育てている

(単位：%)



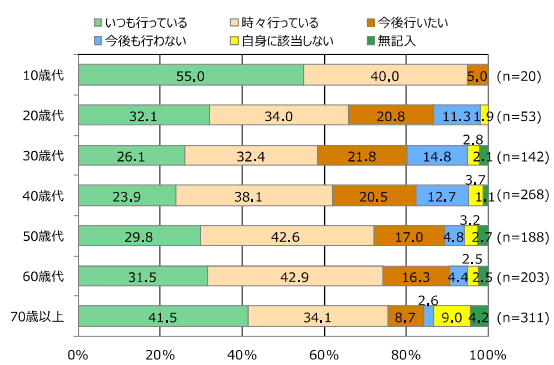
⑬ 自動車を運転する際はアイドリングストップを心がけている

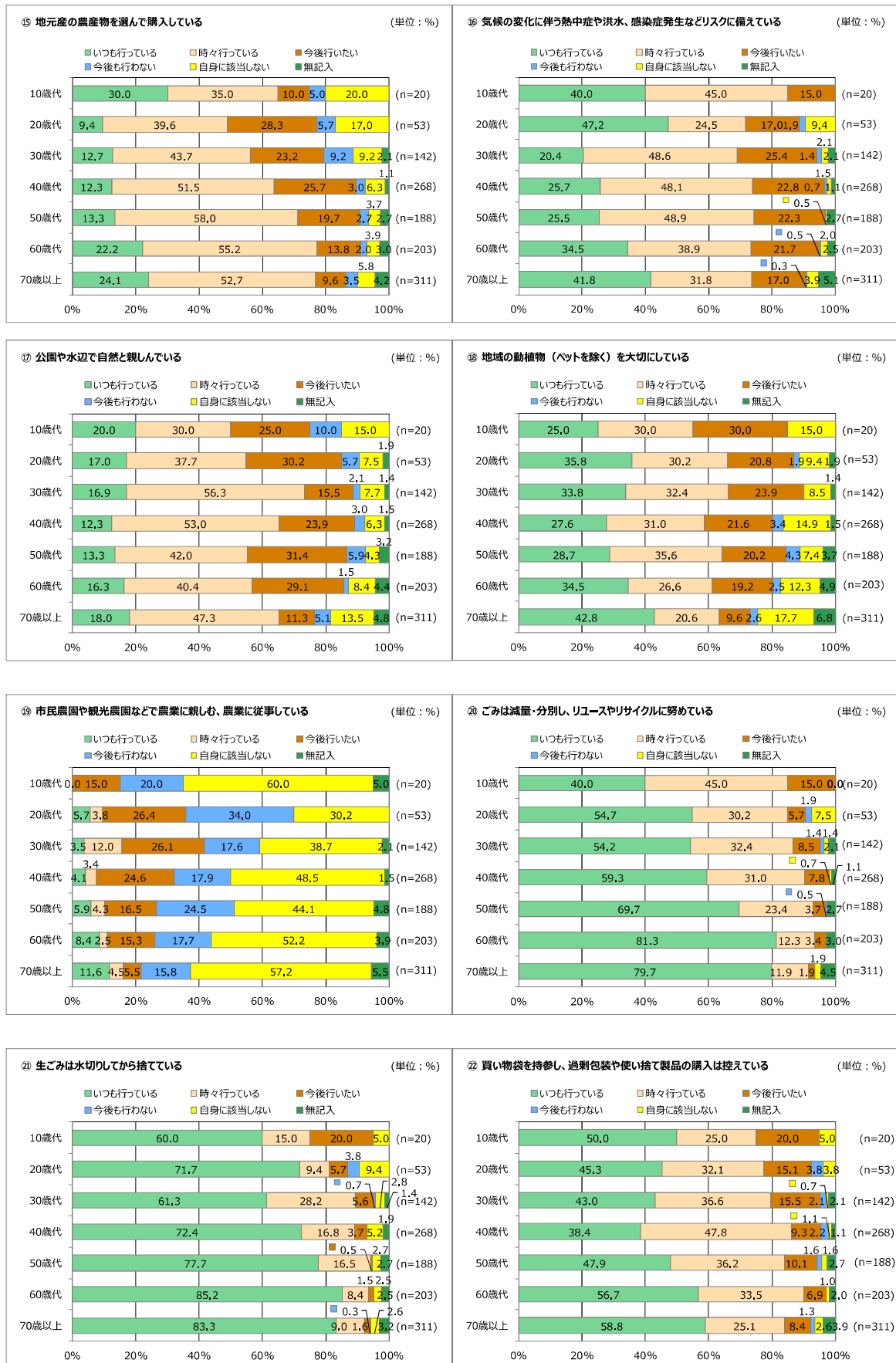
(単位：%)

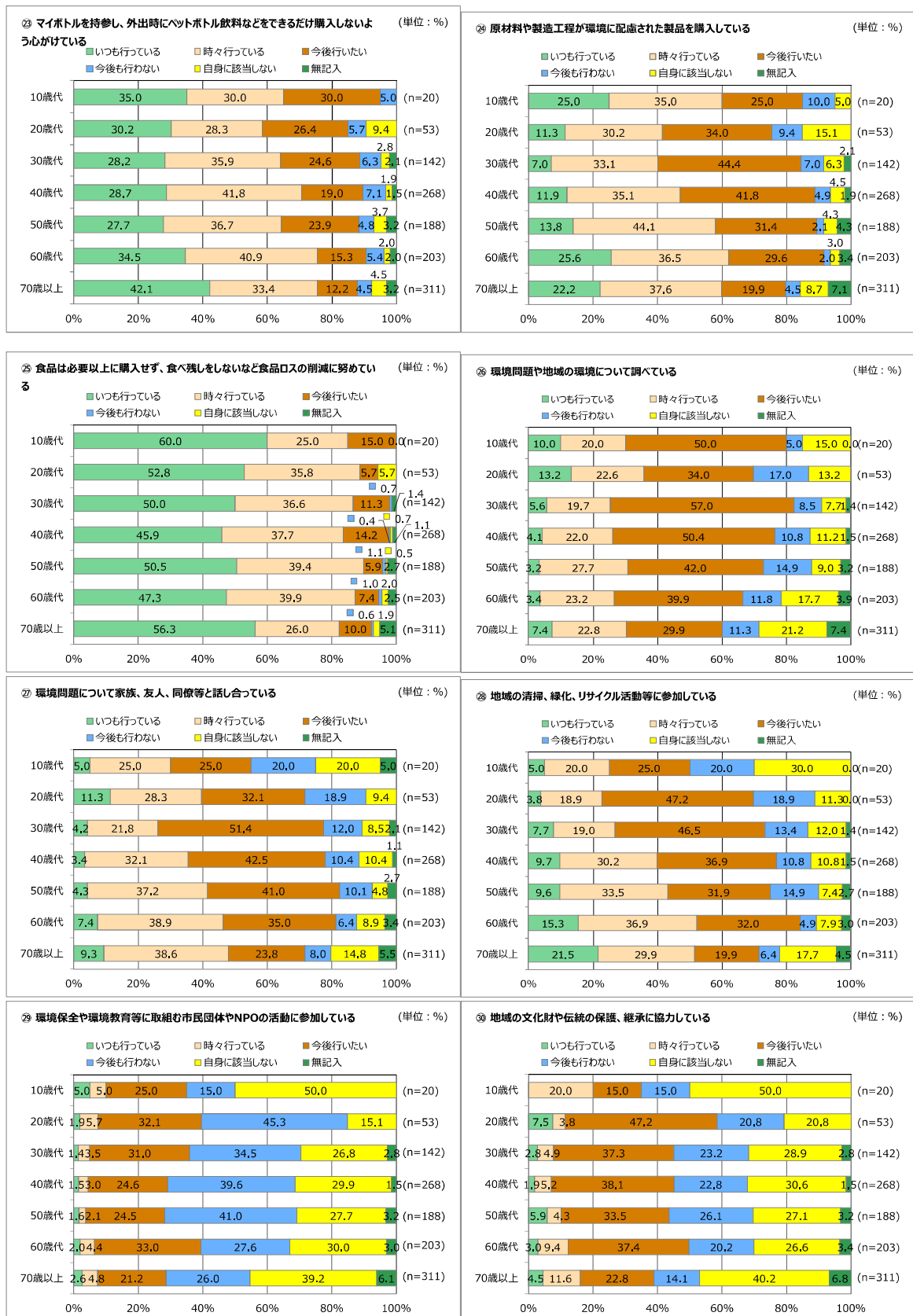


⑭ 公共交通機関や自転車、徒歩で移動するように心がけている

(単位：%)

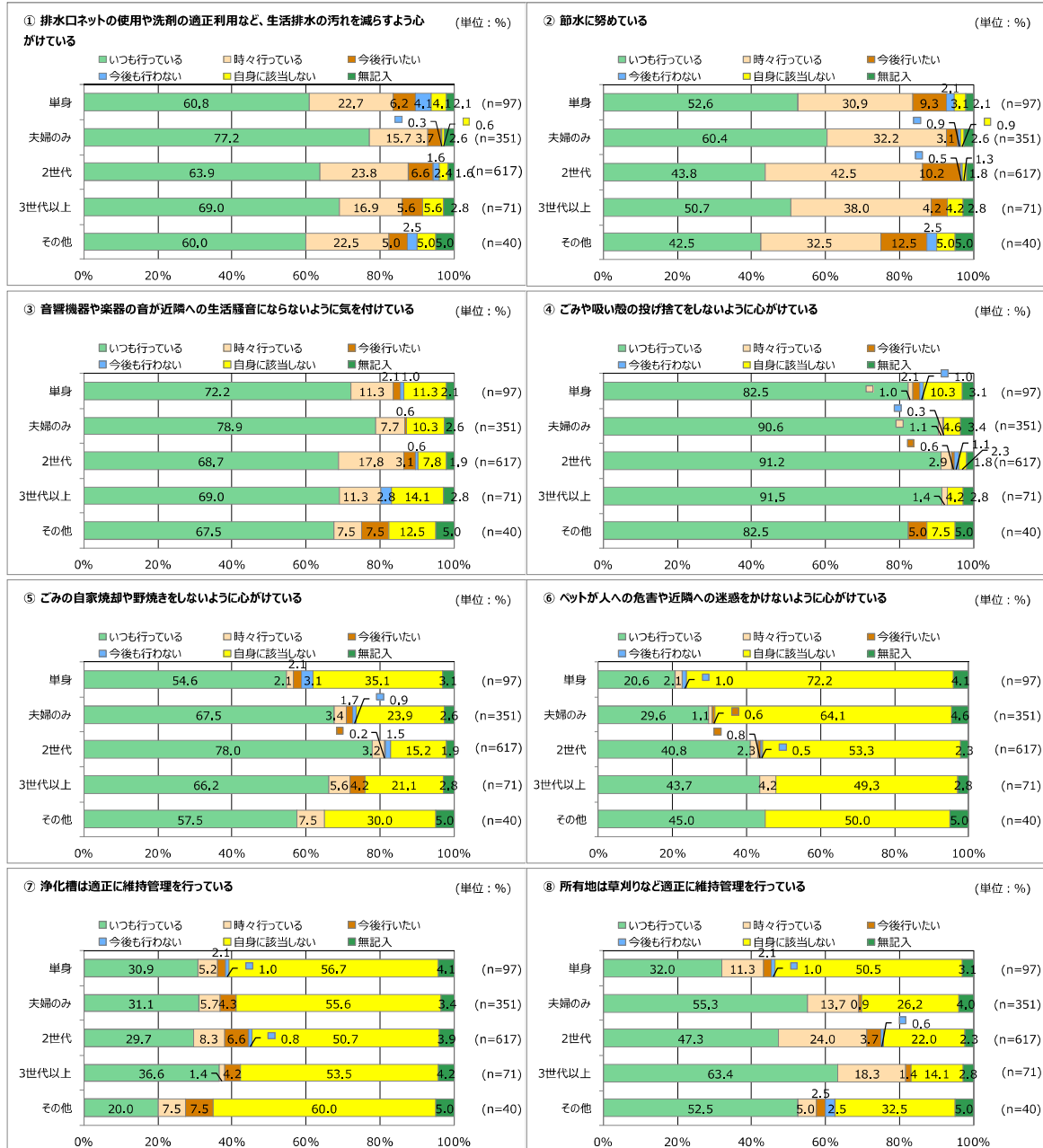


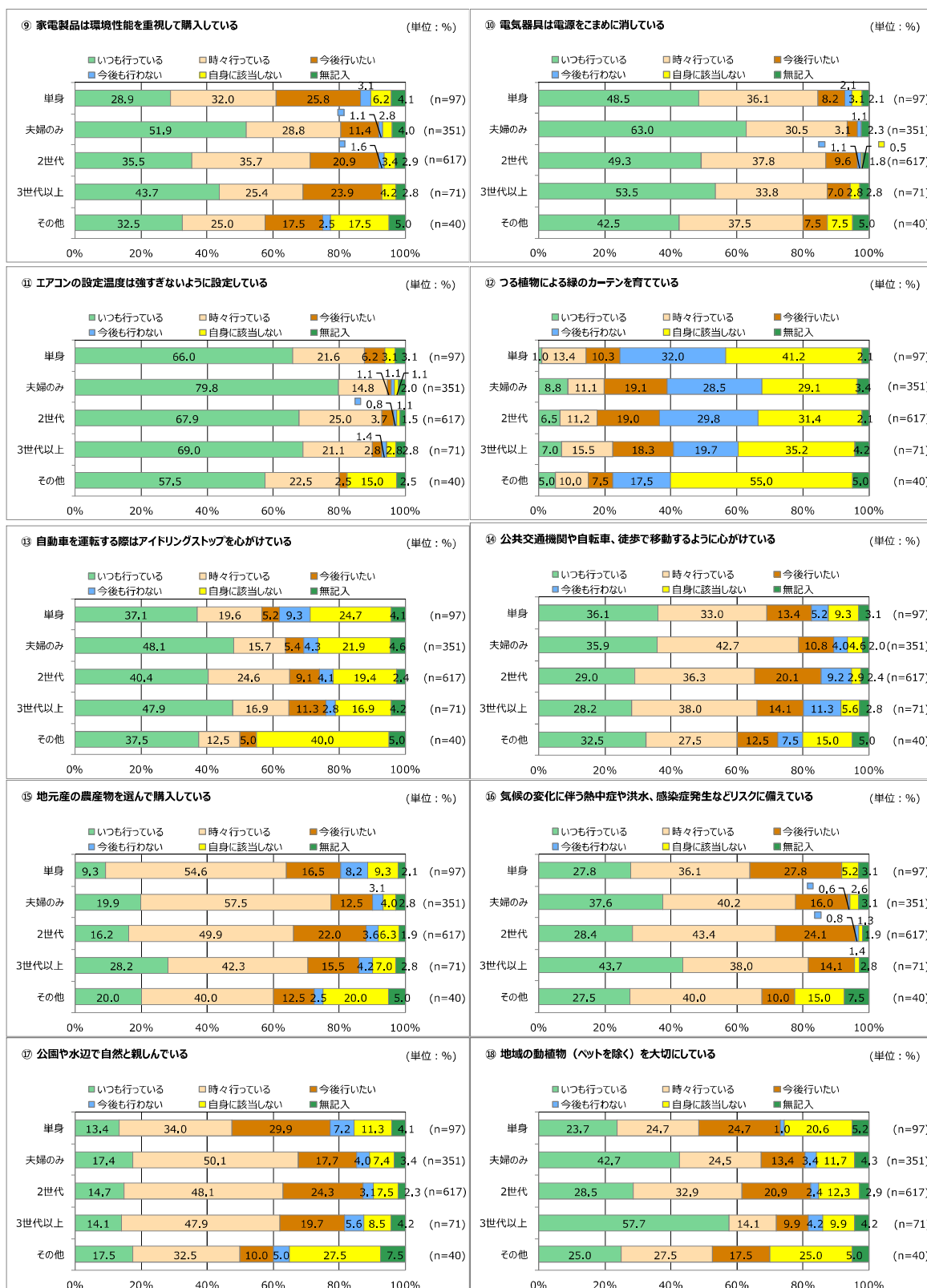


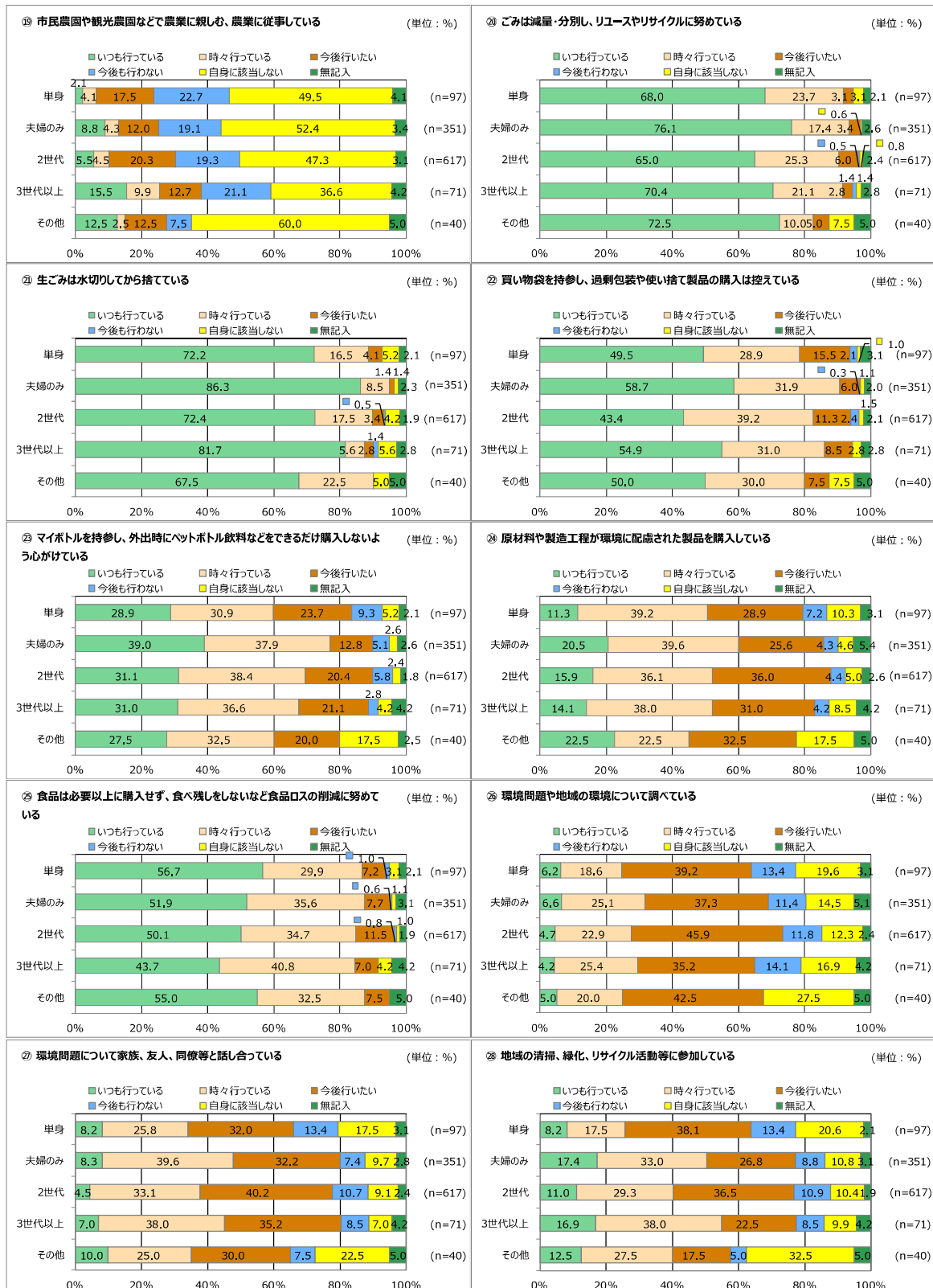


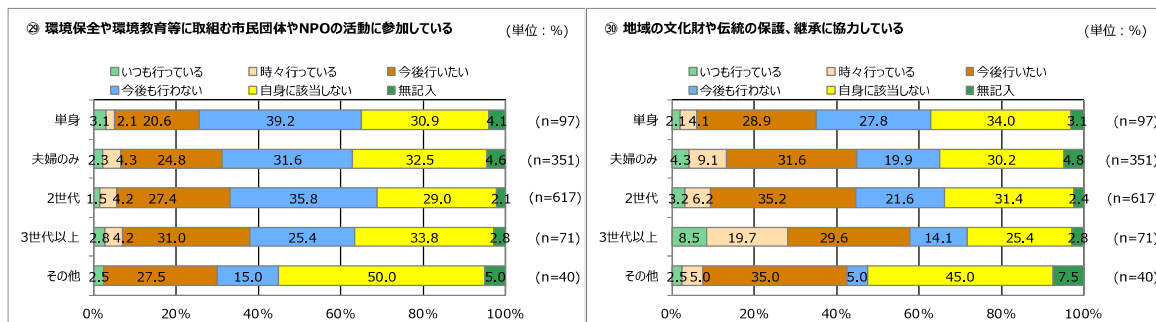
e. クロス集計(家族構成)

- ・「⑨市民農園や観光農園などで農業に親しむ、農業に従事している」、「⑩地域の文化財や伝統の保護、継承に協力している」は3世代以上の世帯の実施率が高い傾向にある。
- ・「⑦公園や水辺で自然と親しんでいる」、「⑧地域の動植物を大切にしている」、「⑥地域の清掃、緑化、リサイクル活動に参加している」は単身世帯で実施率が低い傾向にある。



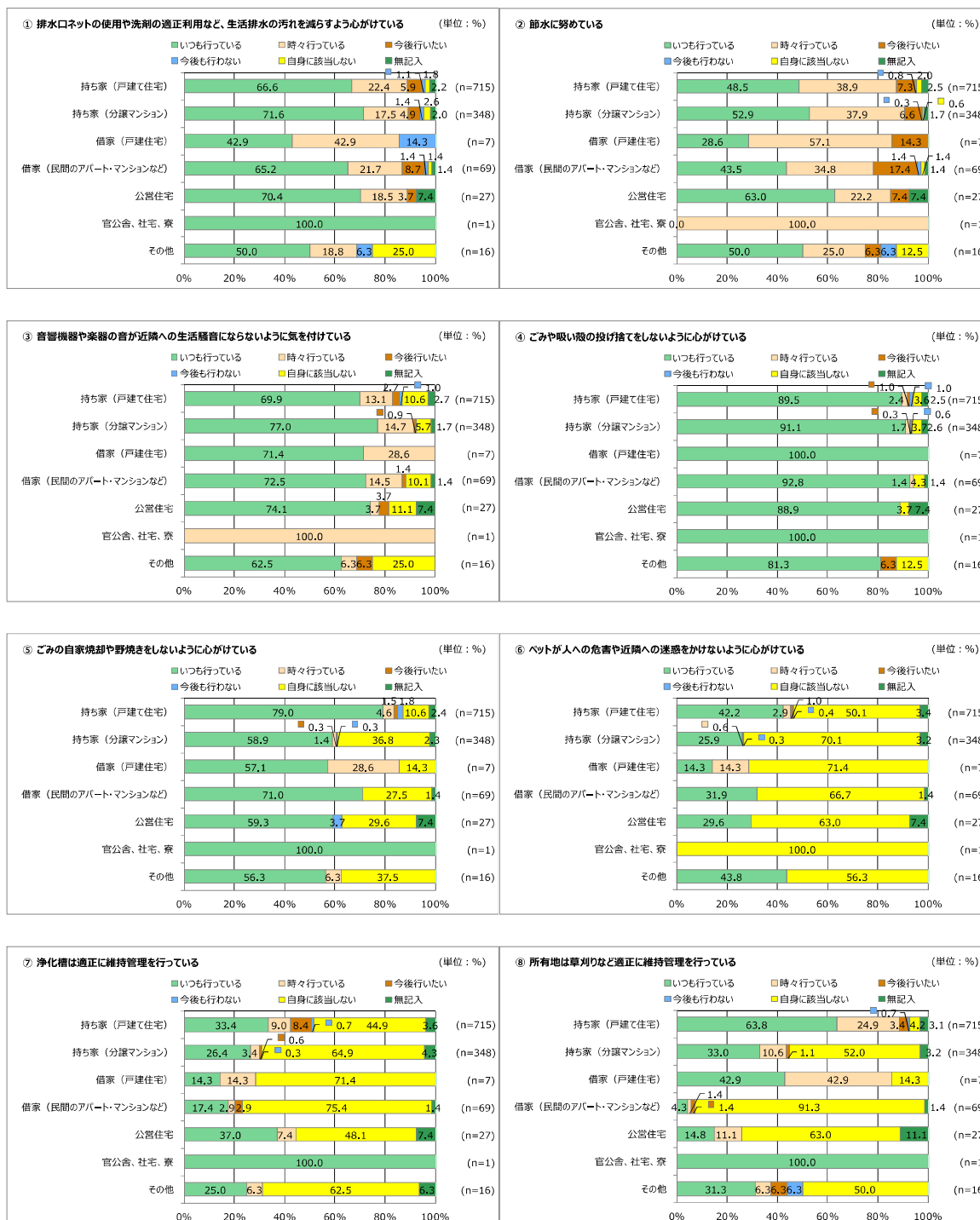




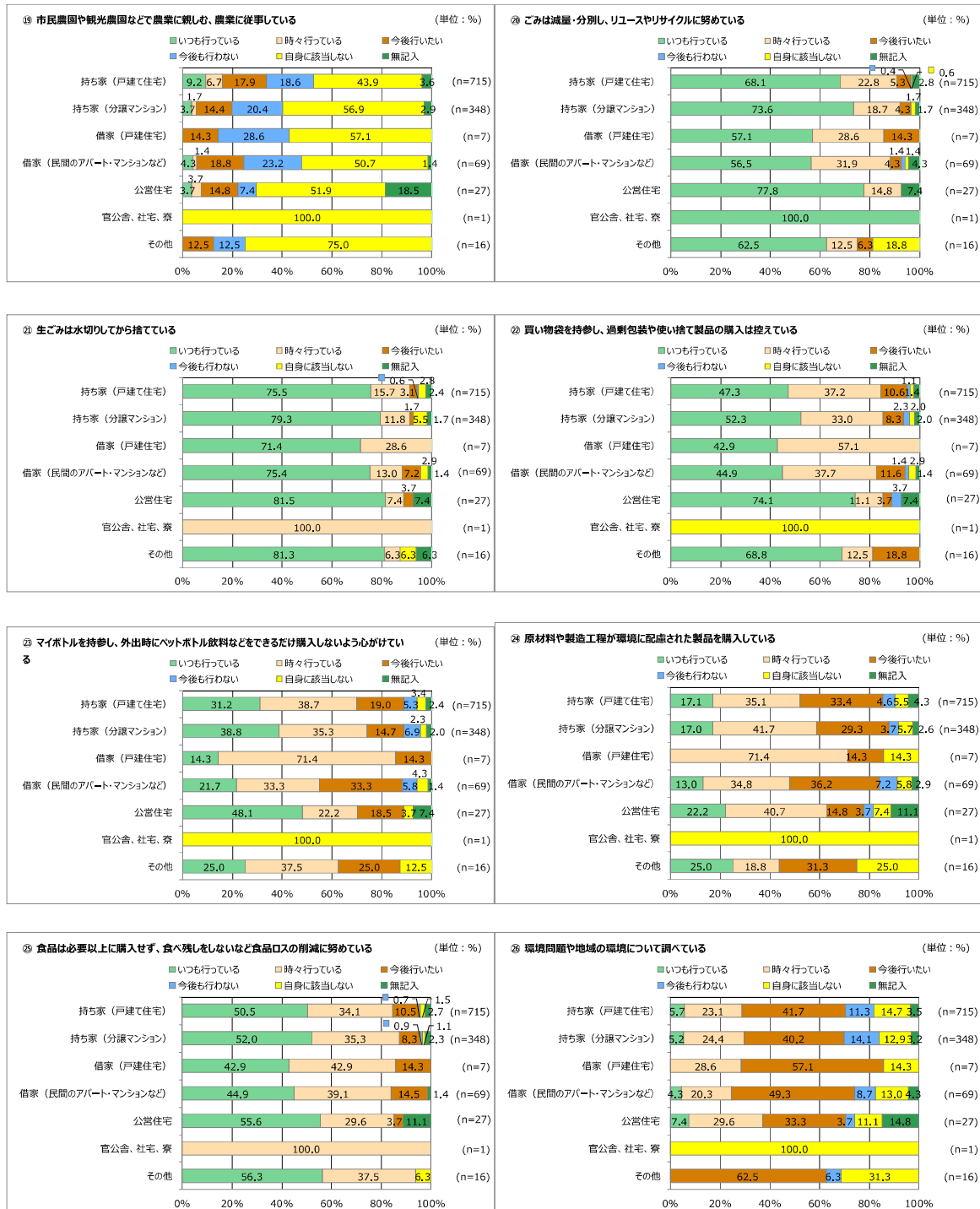


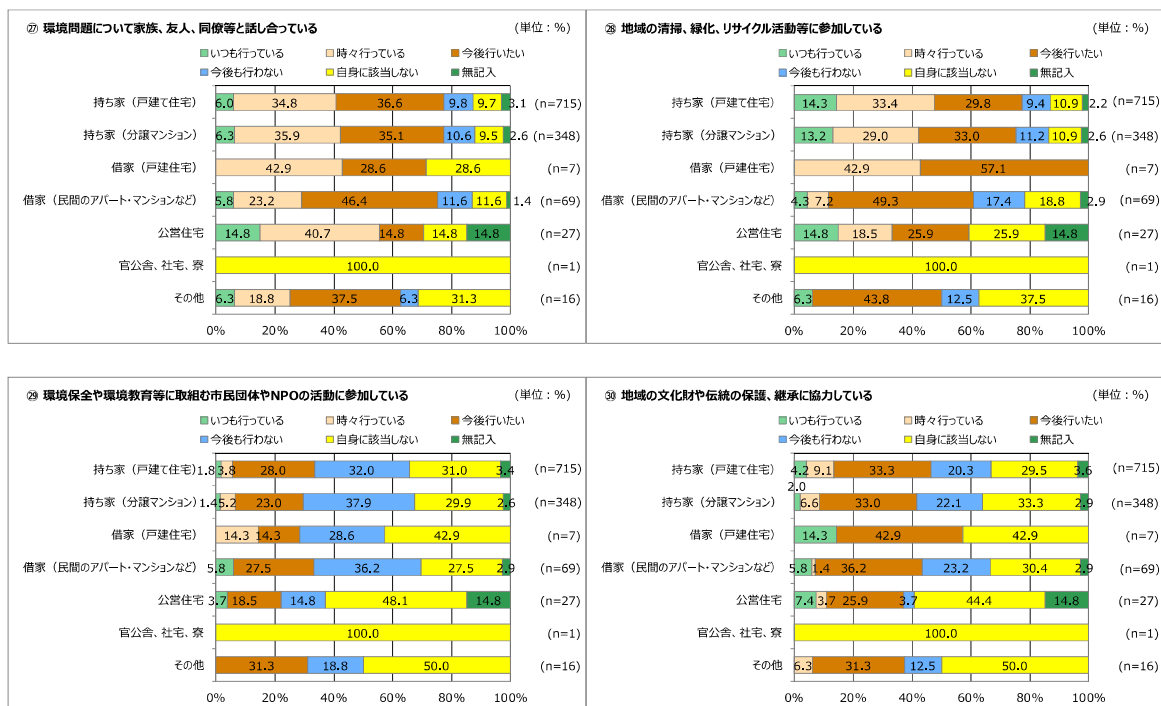
f. クロス集計(住宅状況)

- ・借家（民間のアパート・マンション）は「⑨家電製品の環境性能を重視して購入している」、「⑰公園や水辺で自然と親しんでいる」、「⑱地域の動植物を大切にしている」、「㉔地域の清掃、緑化、リサイクル活動等に参加している」の実施率が低い傾向にある。









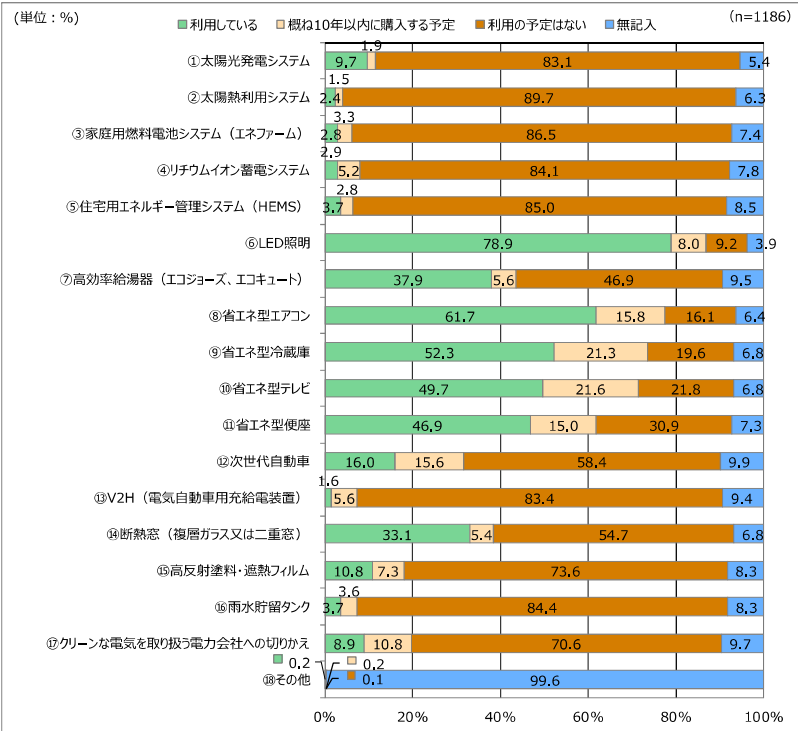
③ 3. 省エネルギー・再生可能エネルギー設備などの利用状況について

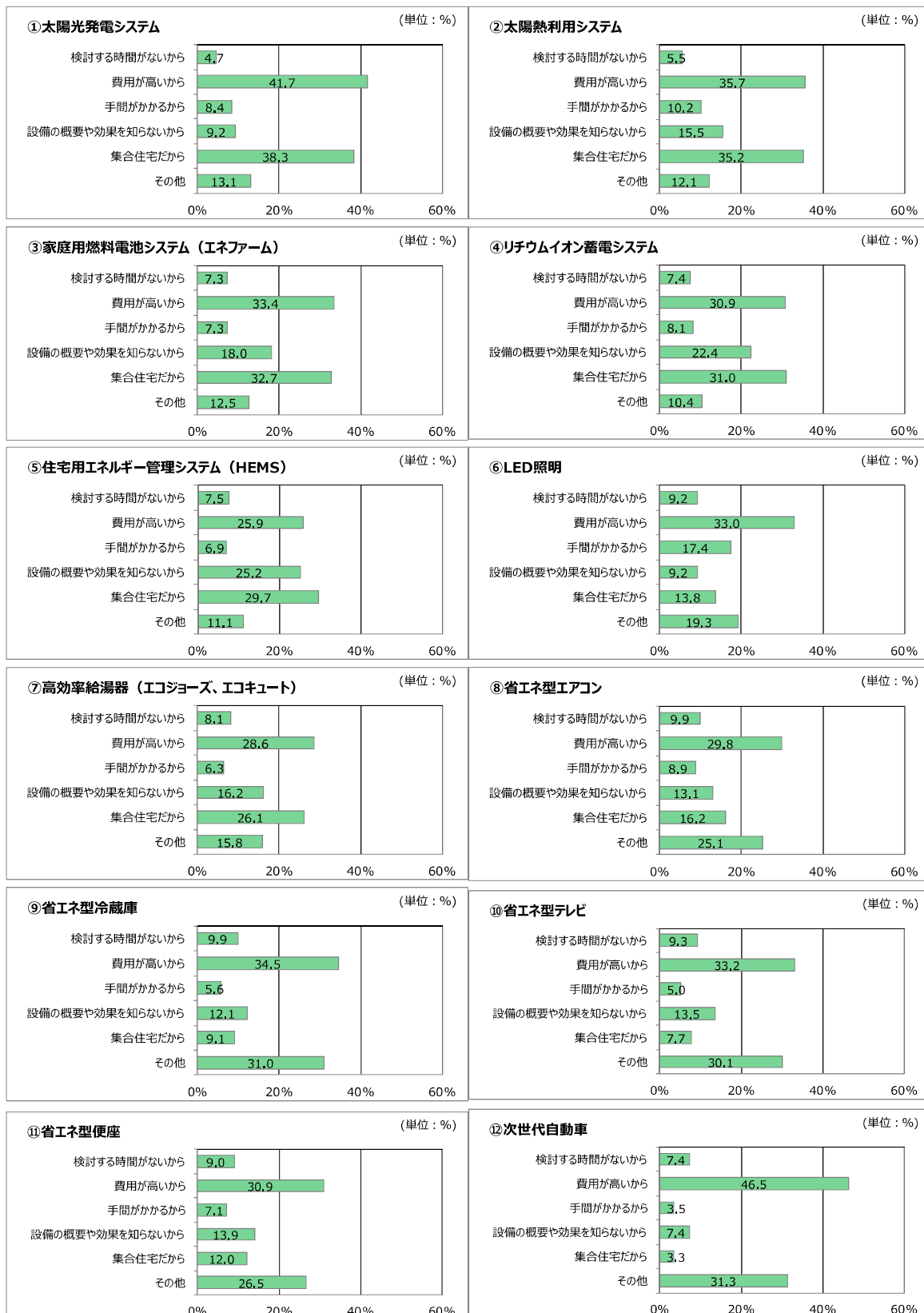
A. Q10

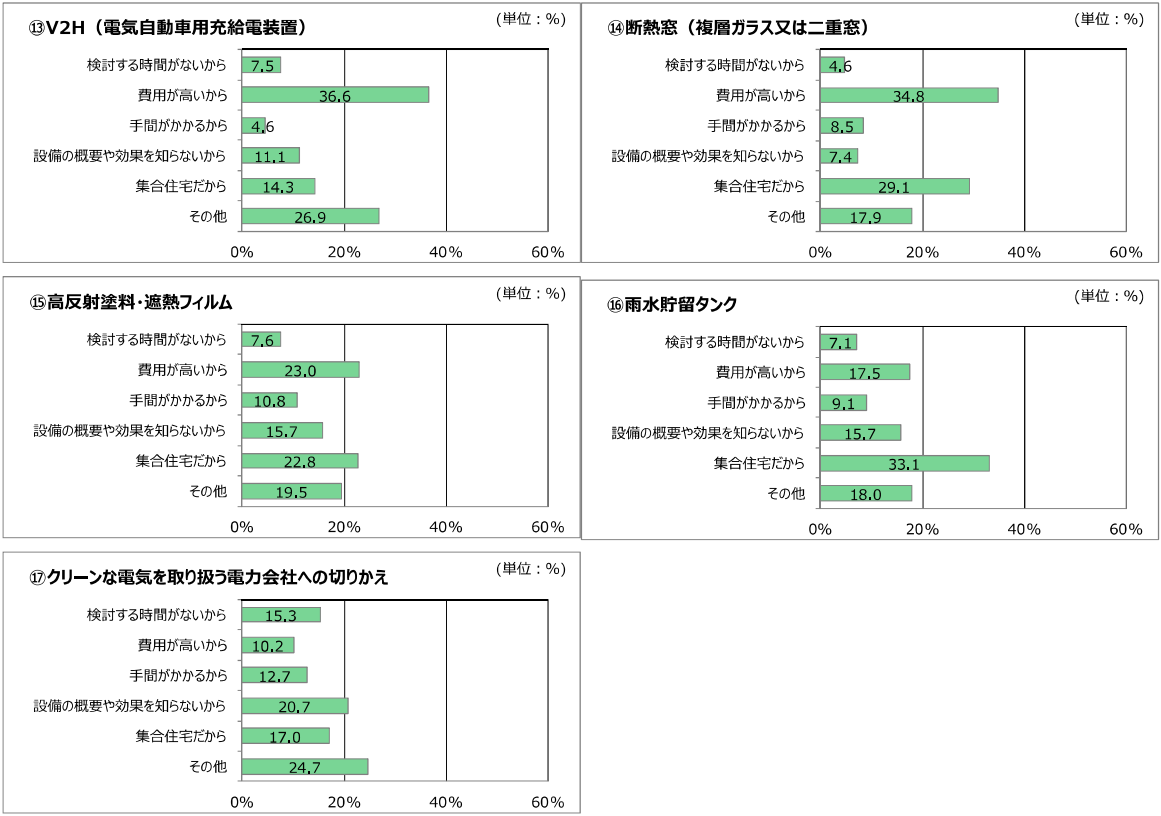
あなたのご家庭では省エネルギーや再生可能エネルギー機器などを利用していますか。もしくは今後利用する予定はありますか。該当する番号または記号に○をつけて下さい。 （利用状況の○はひとつ、“利用の予定はない”場合の理由の○はいくつでも）	
回答欄1 利用状況(○はひとつ)	回答欄2 “利用の予定はない”場合の理由 (○はいくつでも)
1. 利用している 2. 概ね10年以内に購入する予定 （台数記入欄がある項目は購入予定台数も回答） 3. 利用の予定はない	A. 検討する時間がないから B. 費用が高いから C. 手間がかかるから D. 設備の概要や効果を知らないから E. 集合住宅だから F. その他

a. 全体

- ・「⑥LED照明」の導入率が最も高く、78.9%の家庭で導入されている。「⑧省エネ型エアコン」、「⑨省エネ型冷蔵庫」、「⑩省エネ型テレビ」、「⑪省エネ型便座」は40%を超える家庭で導入されており、今後10年以内に購入予定の家庭も15%～20%程度いる。
- ・「⑬V2H（電気自動車用充給電装置）」の導入率が最も低く1.6%となっている。
- ・機器を導入していない理由は、全体的な傾向として、「費用が高いから」、「集合住宅だから」という理由が多い傾向にある。
- ・電力会社の切り替えは、「設備の概要や効果を知らない」という理由が20.7%と最も多くなっている。

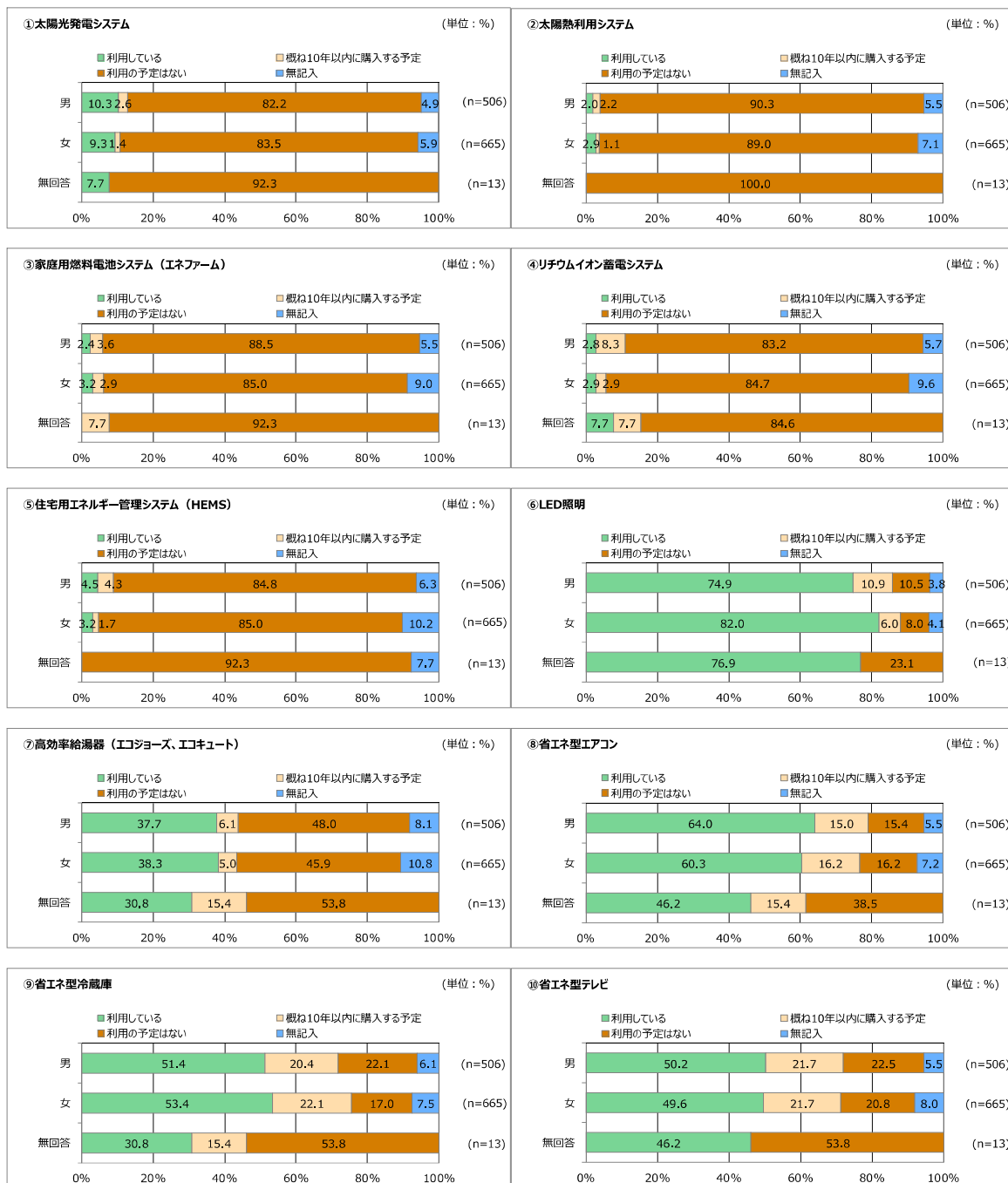


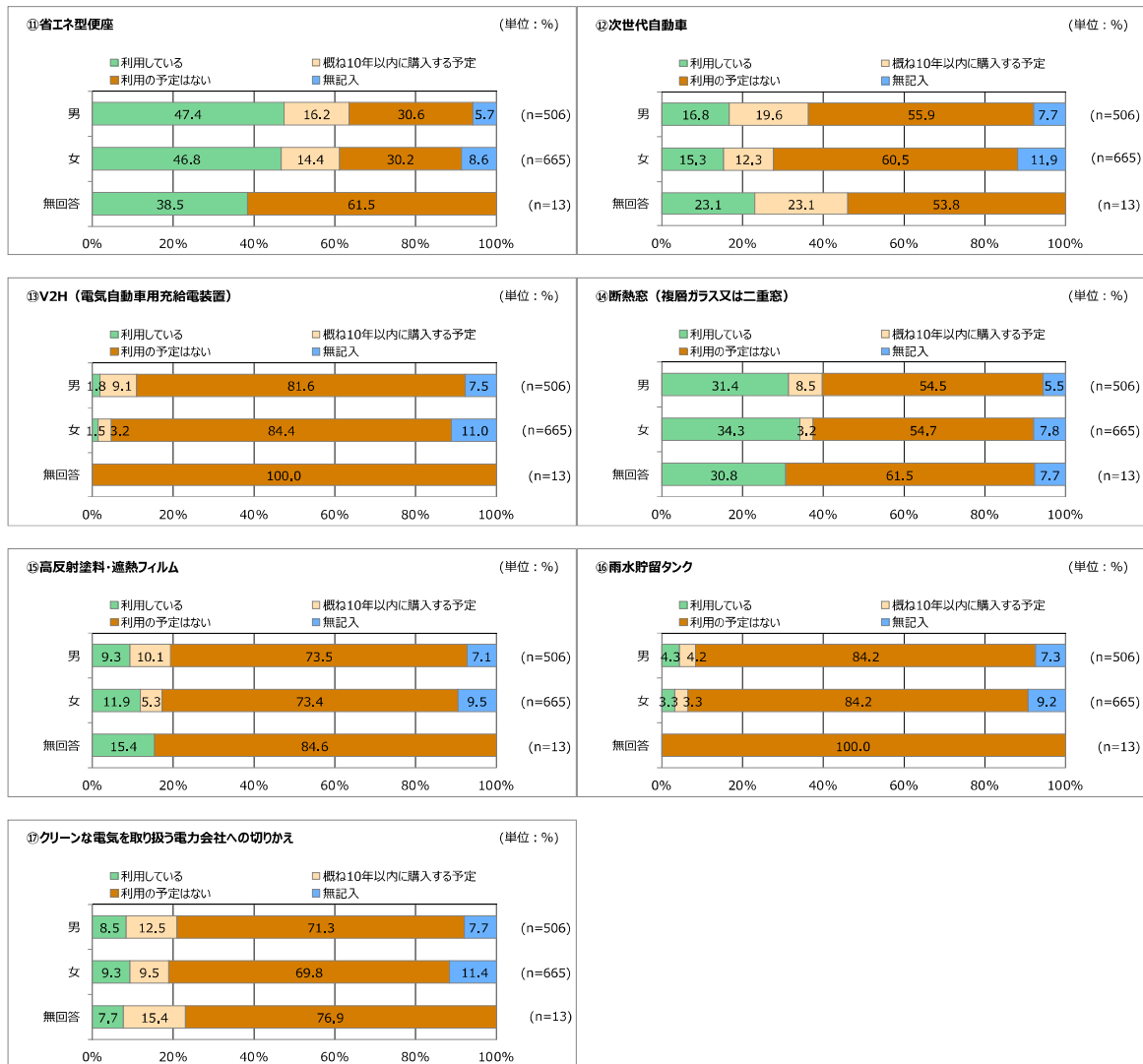




b. クロス集計(性別)

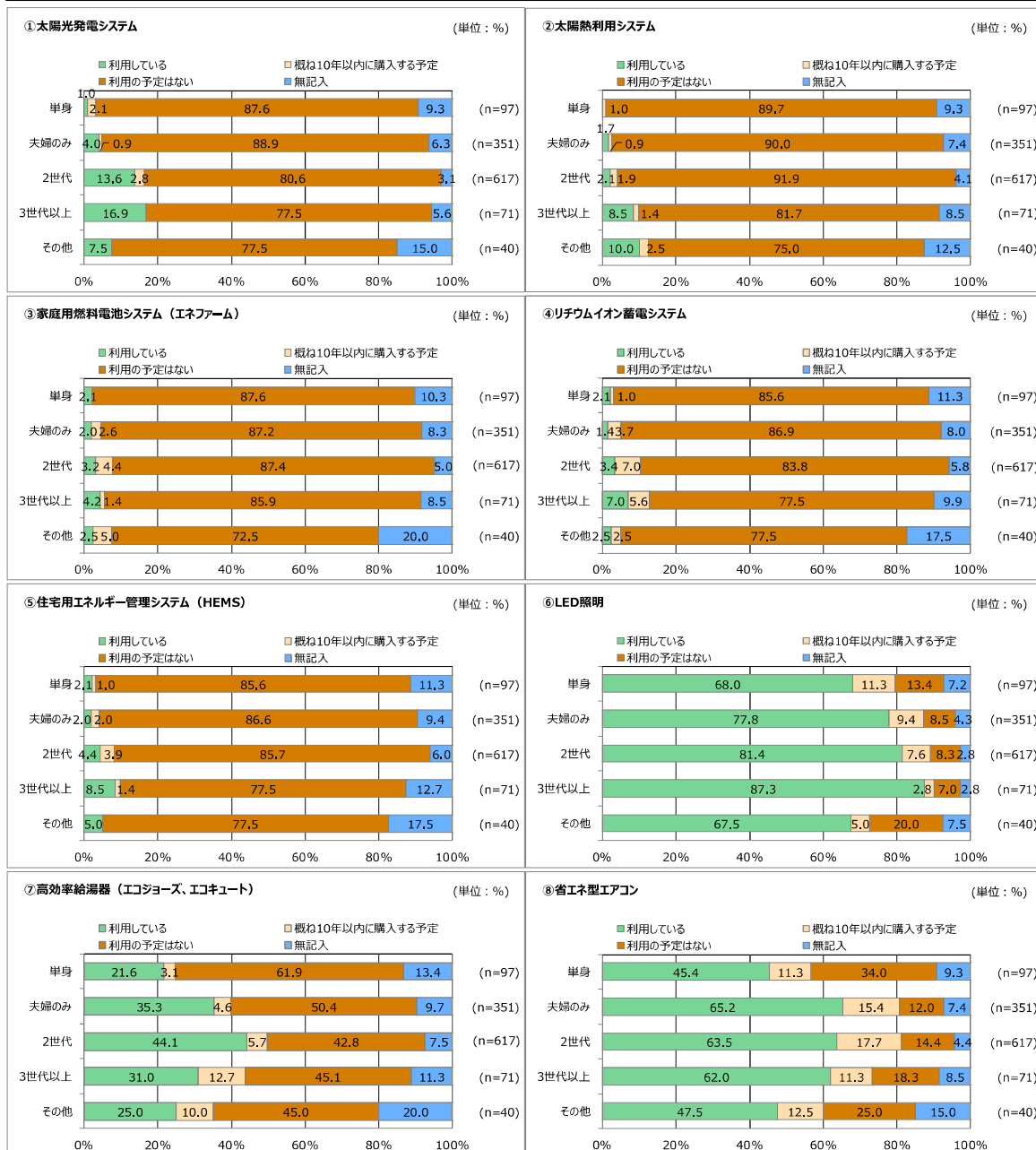
- ・「④リチウムイオン蓄電システム」、「⑫次世代自動車」、「⑬V2H（電気自動車用充給電装置）」、「⑭断熱窓（複層ガラス又は二重窓）」の今後の利用予定は男性の方が高い傾向にある。

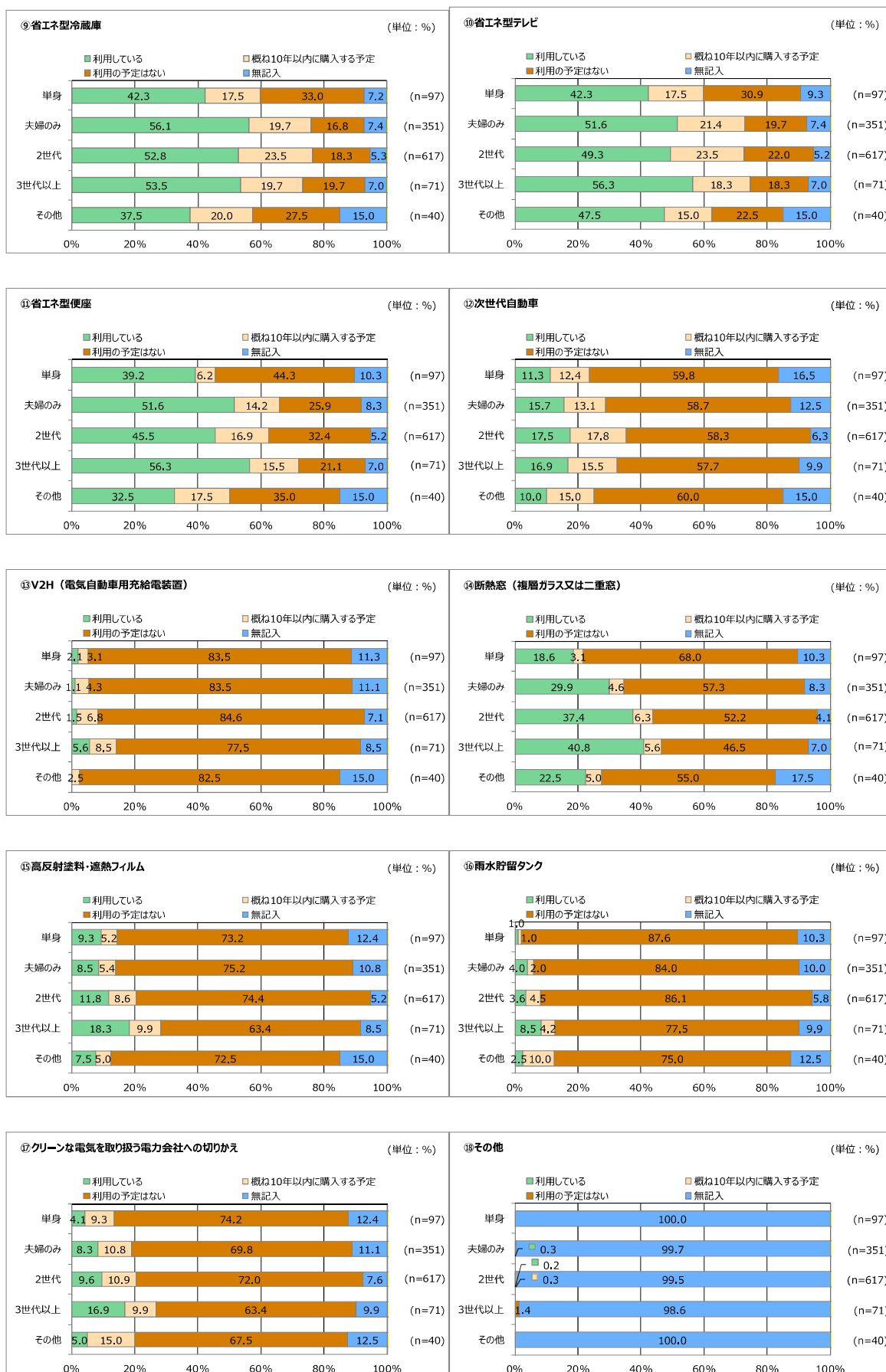




c. クロス集計(家族構成)

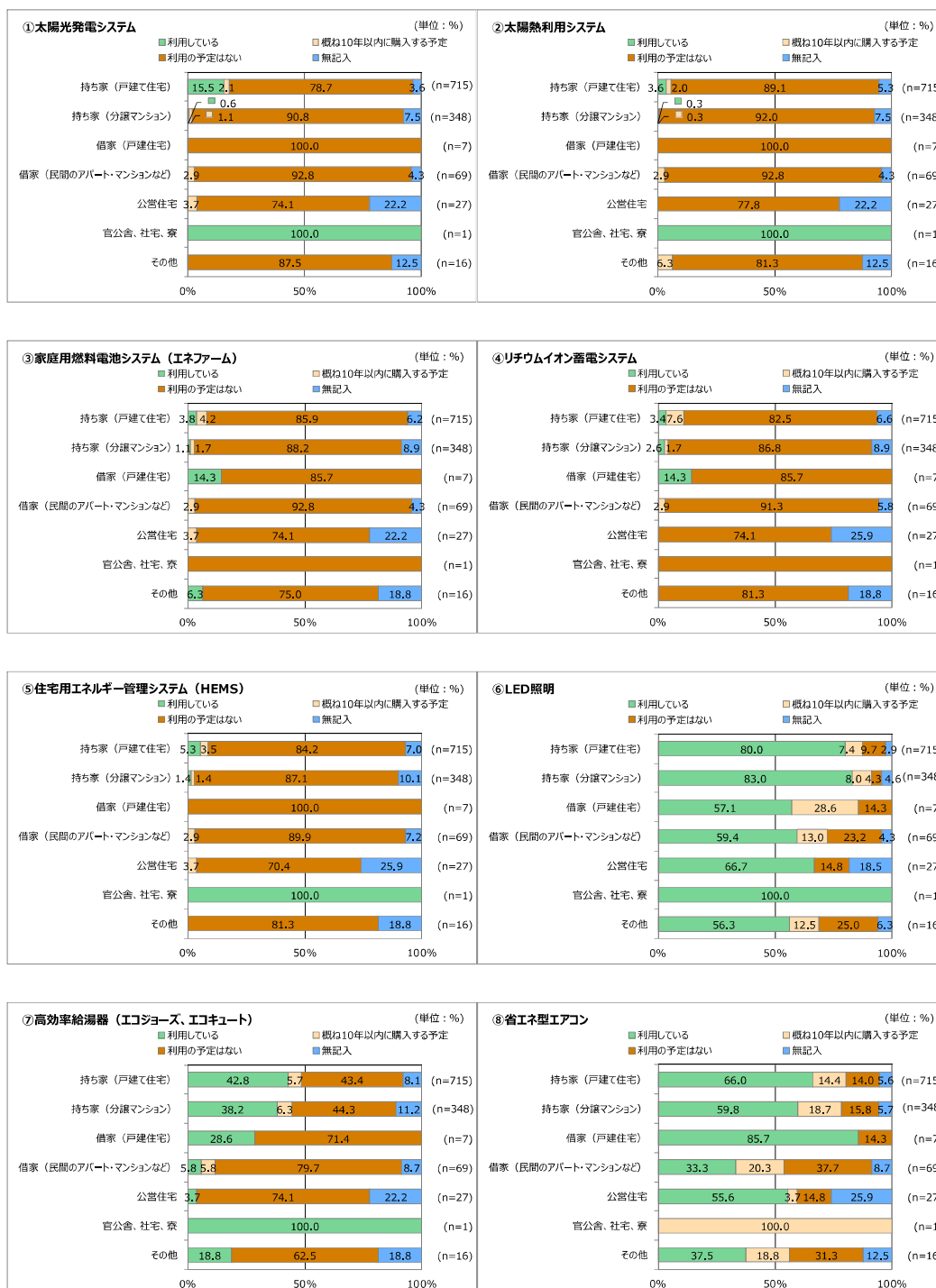
- ・「①太陽光発電システム」は2世代、3世代以上の世帯の導入率が高い傾向にある。
- ・「⑥LED照明」、「⑧省エネ型エアコン」、「⑨省エネ型冷蔵庫」、「⑪省エネ型便座」、「⑭断熱窓（複層ガラス又は二重窓）」は単身の導入率が低い傾向にある。





d. クロス集計(住宅状況)

- ・「①太陽光発電システム」は、持ち家（戸建住宅）では15.5%と一定程度の導入が進んでいる。
- ・「⑥LED照明」、「⑦高効率給湯器（エコジョーズ、エコキュート）」、「⑧省エネ型エアコン」は借家（民間のアパート・マンション）の導入率が低い傾向にある。





④ 4. 環境への取組に対する満足度及び重要度

A. Q11

① 空気のきれいさ（大気汚染や悪臭の少なさ） ② 河川や水路の水の清らかさ ③ 住まいの周辺の静けさ（騒音や振動の少なさ） ④ 住まいの周辺の清潔さ ⑤ 市全体のごみの分別収集やリサイクルの進展 ⑥ 樹林地や緑地との親しみやすさ ⑦ 生きもの（野鳥、動植物、昆虫等）との親しみやすさ ⑧ 河川・湧水等の水辺との親しみやすさ ⑨ 農業や園芸との親しみやすさ ⑩ 田園風景の美しさ ⑪ 街並みの美しさ ⑫ 交通事故や洪水災害に対して安心できるまち ⑬ 歴史的・文化的雰囲気 ⑭ 自動車に過度に依存しない公共交通機関、自転車利用のしやすさ ⑮ 公園や遊歩道の多さ ⑯ 市民・事業者における省エネ行動の定着 ⑰ 建物や設備の省エネ化や再生可能エネルギーの普及 ⑱ 市の環境の施策や現状に関する情報の入手しやすさ ⑲ 市民・事業者による地域の環境保全活動への参加
満足度
1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

B. Q12

前問Q11の項目1～19のうち、あなたが特に重要と考える項目を上位3つ選び、下欄に番号を記入して下さい。
重要度
1位
2位
3位